

平成 1 6 年度
流通サプライチェーン全体最適化促進事業

< 実証実験 >

「ビジネスモジュールテスト結果報告書」

平成 17 年 3 月
日本電気株式会社

改版履歴

日付	版数	改版内容
2005 年 3 月 31 日	初版	新規

実証実験統括責任者

日本電気株式会社 ： 曽根田 雄一

検 印

目 次

1. 目的.....	1
2. 結合テスト結果概要.....	2
3. 結合テスト計画.....	3
3.1 結合テスト環境.....	3
3.2 結合テスト内容.....	3
3.3 結合テスト実施方法	5
4. 結合テスト結果詳細.....	9
4.1 結合テスト実施状況	9
4.2 結合テスト項目.....	11
5. 付録A 結合テスト後に発生した不具合一覧.....	12

1. 目的

この報告書は、流通サプライチェーン全体最適化情報基盤整備事業における実証実験で利用するビジネスモジュールについて、結合テストを実施した結果を報告するものである。

結合テストとは、ビジネスモジュール内の各プログラム同士が仕様どおりに連携し、基本設計に示された機能要件および性能や可用性などの非機能要件を満たすことを確認するためのテストである。実験のテスト工程全体における結合テストの位置づけについて、下図に示した。

結合テストには、単体テストを完了した各プログラムを用いた。結合テストが終了した後、ビジネスモジュールは実際の企業システムと接続され、総合テスト、運用テストが実施された。

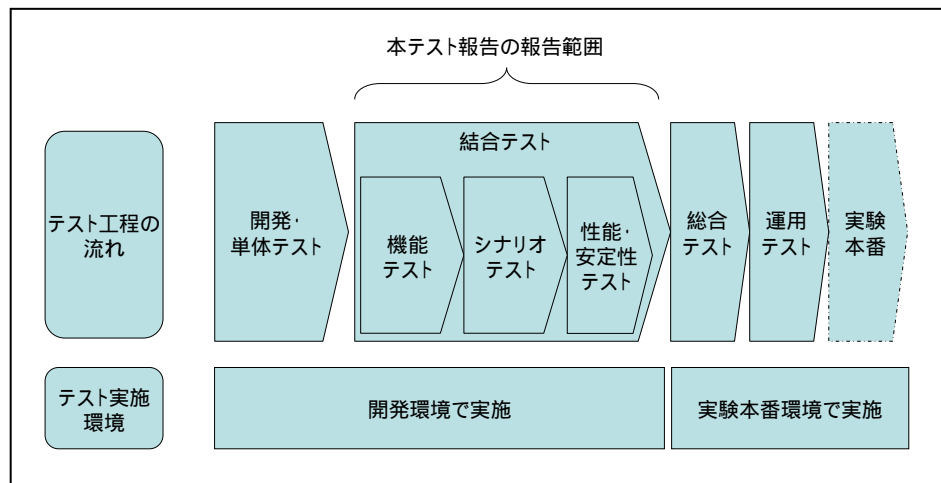


図 1. 1 本テスト報告書の対象とする結合テストの位置づけ

2. 結合テスト結果概要

結合テストとして、計 5 6 9 項目のテストを実施した。この項目数は、テスト中に必要に応じて追加・削除されたものも含む最終的な数値である。これに対して累計 1 9 5 項目の不具合を検出したが、全て対処済みである。

上記より、ビジネスモジュールは総合テストを実施するに十分な品質を満たしていると判断できる。

なお、総合テストおよび運用テストにおいて、ビジネスモジュールに対して 1 2 件の不具合が検出された（付録 A 参照）。これらの不具合はすべて解消済みであるが、それぞれについて発生原因の分析を行い、結合テストが不足していたためと考えられるものについては結合テストの項目を追加し、修正モジュールのリリース前に再テストを実施することとした。

3. 結合テスト計画

3.1 結合テスト環境

結合テストは、以下の結合テスト環境にて実施した。実際の実験環境に近づけるため、結合テストを行う環境として各種の通信サーバごとに別のハードウェアを用いた。なお、インターネットでの通信の遅延や大域の制約に関しては、総合テストにて確認するものとし、結合テストでは考慮しないものとした。

また、結合テストで利用する業務A Pアダプタは、実際の実験で用いるものではなく、結合テスト専用の独自のアダプタを用いた。

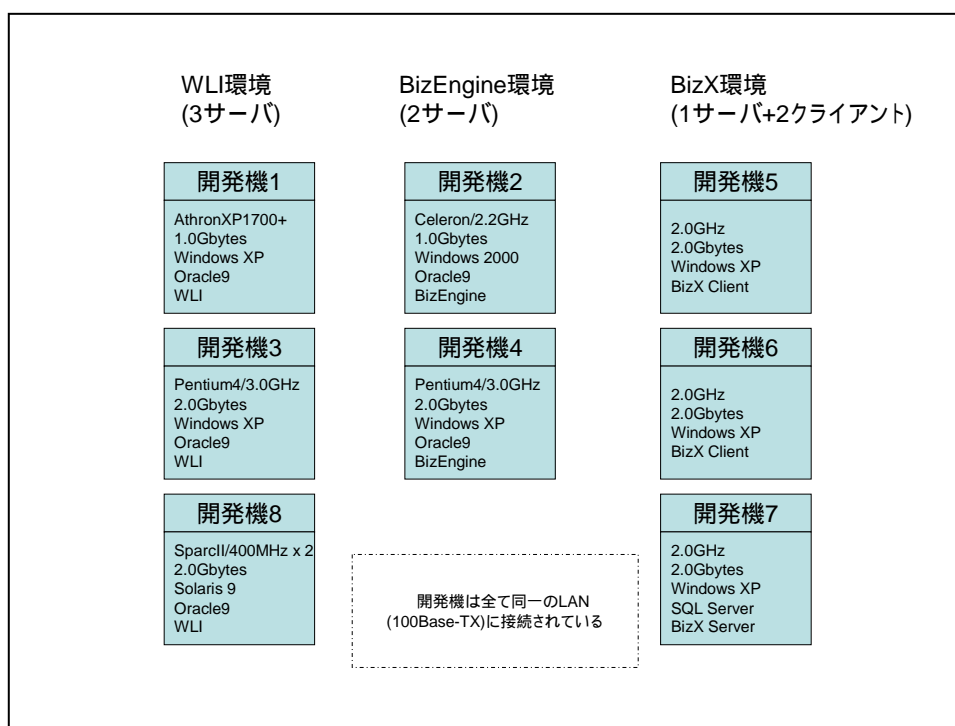


図 3.1 テスト環境のシステム構成

3.2 結合テスト内容

(1) 結合テスト項目数

結合テスト項目数は、以下の指標値および想定値を元に設定した。

- ・ 目標テスト項目密度 15 件 / k s t e p、
想定バグ密度 4 件 / k s t e p

ここでいう「テスト項目」とは、確認すべき機能仕様の数を指す。例えば、「イベントの強制実行機能」のテスト項目は、「(1) 待機中のイベントを強制実行できること」「(2) 実行中のイベントの強制実行はエラーとなること」などに分割できる。この後者の2項目を「テスト項目」と呼んでいる。

実際のテストにおいては、(1) はさらに「イベントが開始されること」「正常実行のログが記録されること」「操作ログが記録されること」のような具体的な動作に分割されるが、この最小単位の確認事項のことはテスト項目ではなく「確認項目」と呼ぶことにする。

(2) テスト項目の抽出観点

テストケースは、テスト担当者が作成し、テストマネージャがレビューを行う。

テスト項目の抽出は、確認すべき観点ごとに、機能テスト、性能・安定性テスト、シナリオテストの3つのテスト項目グループ別に分けて行った。

機能テスト項目抽出観点

全ての機能が、正常系および異常系について適切に実装されているかどうかを確認する。項目抽出の観点は以下とする。

1) 正常系

- ・テスト対象機能の正常ルートを一回・連続・並列・大量実行
- ・テスト対象機能に与えるパラメータの値や数について、最小値と最大値

2) 異常系

- ・異常ルートを一回・連続・並列・大量実行
- ・テスト対象機能に与えるパラメータとして、仕様規定外の値
- ・同じく、前提条件が満たされていない値
- ・正常ルートと異常ルートの混在を連続・並列実行
- ・タイムアウト
- ・強制終了と再開始

性能・安定性テスト（負荷テスト）項目抽出観点

- ・ 30,000明細の大量データについて、事前に定められた性能（5分以内の送受信）を達成しているかを確認する。
- ・ 48時間の間送受信処理を継続しておこない、リソース利用状況および送受信処理に異常がないことを検証する。

シナリオテスト項目抽出観点

- ・ 実験で実施する業務フローと同様に、発注から請求支払までの情報交換を連続して行うシナリオ（コラボレーション）を数種類設定し、これに従ったシステム全体の動作が想定どおりであることを確認する。

3.3 結合テスト実施方法

結合テストは、表 3 1 に示した役割を持った各作業者によって、図 3 . 2 に示した作業フローに沿って実施されるものとする。フロー中の作業の詳細について、以降に記述する。

表 3 1 結合テスト実施作業フローに登場する役割の一覧

#	役割名	作業内容
1	テストマネージャ	結合テスト全体の状況を管理する。結合テスト進捗およびビジネスモジュールの品質を評価し、テスト判定会議に報告する。
2	開発担当者	ビジネスモジュールのプログラムコードを開発する。自身および他人の開発したコードに対して、バグ発生時に原因分析・修正対応を行う。
3	テスト担当者	テストマネージャの指示の元、結合テストのための操作や、テスト結果の記録をとる。
4	ビルド担当者	結合テスト環境を維持管理し、最新のテ

		ストモジュールを作成する。
5	テスト判定会議 (P Mを含む複数メンバ)	結合テストの進捗報告を受ける。結合テストの終了可否を判断する。

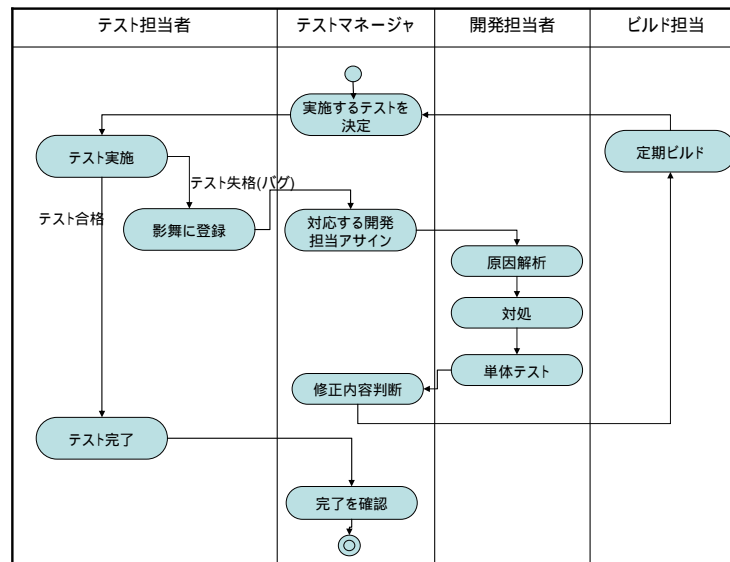


図 3 . 2 テスト実施とバグ対処のフロー
(個々のテスト項目の状態遷移に相当)

(1) ビルドの作成 (原則 1 日 1 回)

- 1) ビルド担当者は、テスト用ビルドを行う。(毎日 1 8 : 0 0 に実施する。状況によってはこの限りではない)
- 2) 各開発担当者は、ビルド時刻までに単体テストの完了したコードを C V S にコミットする。
- 3) ビルドに不具合が発生した場合は、ビルド担当者が原因を切り分け、テストマネージャに報告する。
- 4) ビルド不具合の報告を受けたテストマネージャは、不具合対処のための作業を適切な担当者に指示する。テスト実施が可能な部分がある場合は、不具合対処と平行してテストを進めるかどうかを判断し、その判断に基づいてテスト担当者に作業を指示する。

(2) テストの実施 (随時)

- 1) テストマネージャはテスト担当者にテスト項目 (複数) を割り当てる。
- 2) テスト担当者は、テストを実施する。実施はテストツールを作成しながら行い、再テストが出来るかぎり省力化されるようにする。(例えば、DBの内容を目視確認するのではなく、バッチファイルにてOKかNGかを出力するツールを適宜作成していく)
- 3) テストが正常に完了した後、テスト担当者は、テスト項目に、担当者名、(ビルド番号) 完了日時を記入する。
- 4) 全てのアサイン済みテスト項目が消化された場合、テスト担当者は (1) から繰り返す。

(3) バグ発生時の対応 (随時)

- 1) バグが発生した場合は、テスト担当者は出来る限りの切り分けを行い、バグ追跡システムにバグ内容 (テスト項目番号およびログも含めて) を記録する。
- 2) テスト担当者は、テスト項目一覧にシステムが採番したバグ番号を記録する。
- 3) テストマネージャは、バグ内容に基づいて開発担当者の中からバグ対応担当者を割り当てる。
- 4) バグ対応担当者は、バグ原因を解析し、対処する。
- 5) バグ対応担当者は、バグ対処および単体テストが完了すれば、完了したことを追跡システムに登録する。
- 6) テストマネージャは、バグ対処内容が適切かどうか判断し、不適切であればバグ対応担当者への差し戻しを行う。

(4) 判定会議 (日次、 1 0 : 1 5 ~ 1 0 : 3 0)

- 1) テストマネージャは、判定会議を開催し、(完了テスト項目数および残テスト項目数、摘出バグ数、残存バグ数、見積もり総バグ数) と、これに基づく品質見解を会議メンバに報告する。
- 2) テスト判定会議では、報告に基づき、適切な対処をとる。

4. 結合テスト結果詳細

4.1 結合テスト実施状況

下記の期間、大きく2フェーズに分けて結合テストを実施した。

表 4.1 フェーズ別の結合テスト実施期間

#	期間	対象
1	～ 9 / 3 0	S / S 型および共通機能
2	1 0 / 1 ～ 1 0 / 3 1	主に C / S 型 (B i z X) に関する機能
3	(1 1 / 1 以降)	実験トラブル対応、実験での性能テスト対応

テスト実施中の進捗状況詳細を次ページ図に示す。

1 1 / 1 リリース時点でテスト項目の消化およびバグへの対応は収束していることが分かる。一部残っているテスト項目およびバグは、負荷テストに関するものであり、これらについては負荷テスト前の 1 1 / 2 0 に解消された。

以下、テスト実施状況について補足する。

- 1) 1 0 月後半に、テスト消化率の低下、およびバグ検出の増加が現れている。これは、C / S 型通信アダプタのテストが S / S 型のテストより一ヶ月おくらせて実施されたため、C / S 型に関するテスト項目 7 7 件の追加と、そのテスト実施による新規バグ検出によるものである。
- 2) 1 0 / 1 5 に消化率が一時的に落ちているが、これは総合テストにて発生した不具合からのフィードバックとして、リリース前テスト項目を 3 0 追加し、その直後にテスト完了したために消化率が回復したものである。

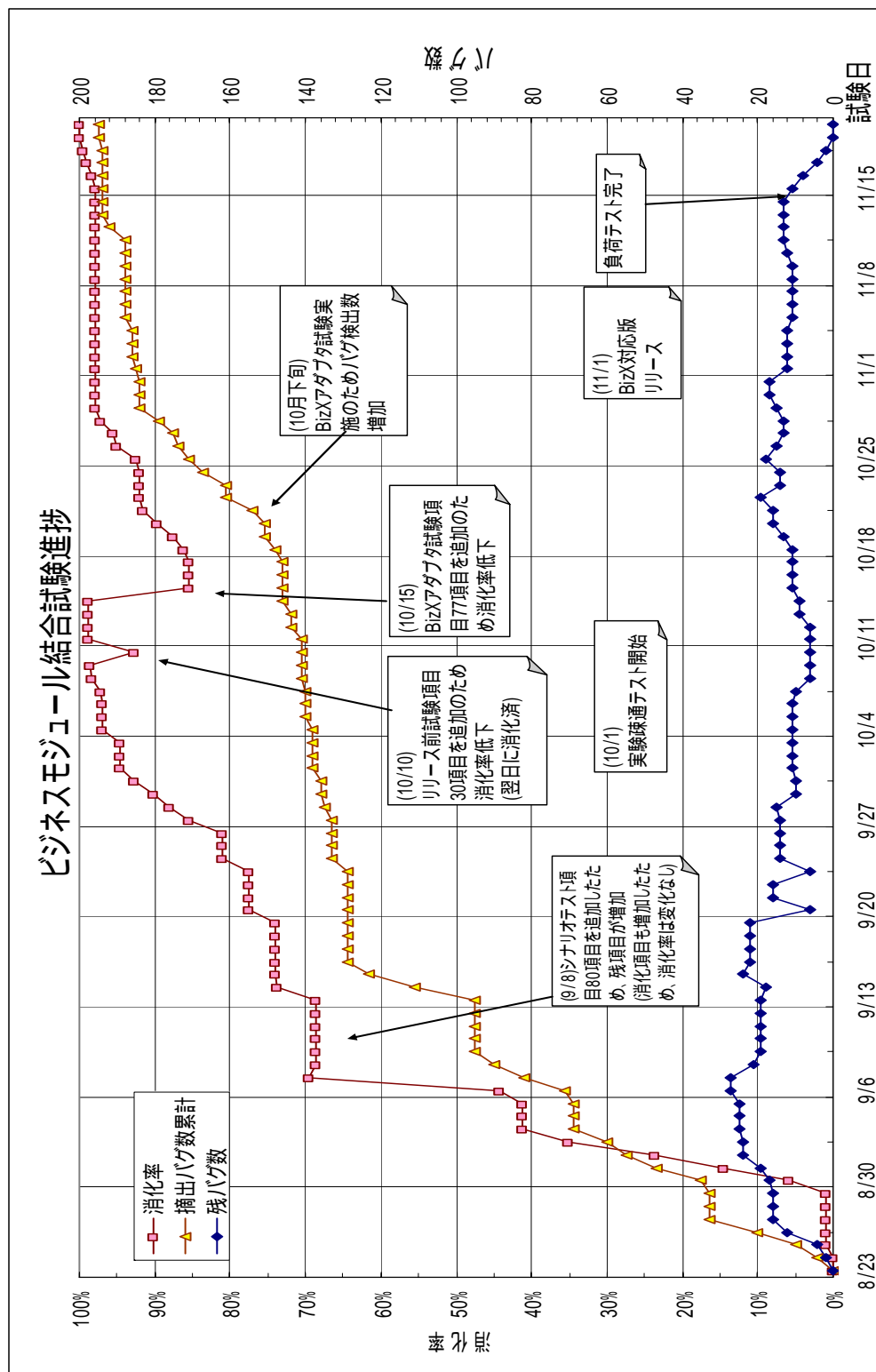


図 4 . 2 結合テストの進捗状況詳細

4.2 結合テスト項目

抽出した結合テスト項目の全項目数とその内訳を以下に示す。これらの数値は、テスト中に追加・削除されたものを含んだ、最終的な数値である。

表 4 . 3 抽出したテスト項目数の一覧（総計 5 6 9 項目）

#	大分類	小分類	項目数	備考
1	機能テスト		計 467	
2		送信業務 A P アダプタ	37	
3		受信業務 A P アダプタ	23	
4		送受信 WLI-Biz	42	
5		送受信 WLI-WLI	14	
6		送受信 Biz-WLI	14	
7		送受信 BizX	32	
8		複数送受信	30	送信先振り分け機能追加分を含む
9		並行送受信	35	
10		連続送受信	32	
11		運用	11	起動・終了など
12		イベント制御	37	
13		不正な設定	70	
14		固定長データ不正	28	
15		自サーバダウン	19	
16		送信先ダウン	43	
17	シナリオ テスト		計 71	
18		発注～ASN	14	
19		発注～ASN（欠品あり）	7	トレース機能確認を含む
20		発注～受領	8	
21		発注～受領（欠品あり）	13	トレース機能確認を含む
22		請求～支払明細	5	
23		自由記述	11	
24		発注～支払明細	13	
25	性能・安定性 テスト		計 31	
26		性能テスト	18	
27		安定性テスト	13	

5. 付録A 結合テスト後に発生した不具合一覧

表 5. 1 結合テスト後に発生したビジネスモジュールの不具合一覧

#	発生日	内容	対応	備考
1	10/3	ASN や物品受領を送受信する際に、トレース情報を取得する処理で、発注年月日が必須になっている。発注年月日がない場合に、トレースが不可能になる。	発注年月日が業務データから得られない場合でも、発注データに付与されている 発注年月日を検索して付与するよう業務 AP アダプタ SDK を拡張しました。 対応する発注が見つからない場合は、1970/1/1 となります。	仕様追加
2	10/14	1つの送信ファイルに複数拠点(取引先)へのメッセージが含まれていた場合、それを無視して1つ目の拠点に対するコラボレーションを使って全てのデータをその拠点に送信してしまう。	コラボレーションの決定ロジックに誤りがありました。 1つのファイルに複数取引先がある場合に前回送った取引先をキャッシュしてしまうことがありました。 BM を修正します。	バグ ID:0146
3	10/16	カゴメ様請求データで、請求書情報/請求伝票情報リスト/請求伝票情報/管理番号/訂正関連伝票番号へのマッピングを行うと、業務 AP アダプタテストツールでエラーとなる。	マッピングから Java オブジェクトを作成する際にバグがありました。業務 AP アダプタフレームワークを修正します。	バグ ID:0147
4	10/18	10/16 イオン側の BM 入れ替え後、既に発注 ASN まで完了している発注に対して物品受領を送ろうとすると、BM 側でエラーになる。(「業務 AP から BM ヘデータを渡す処理に失敗しました。」といったエラーが発生する。)	BpcMessage にフィールドが追加されたため、10/15 版の BM が 10/4 版の BM がシリアライズしたオブジェクトのデシリアライズを出来なくなったのが原因。10/15 版の BM でもアクセス可能なように DB の内容を書き換えるツールを提供することで対応。	リリース時に再発防止チェックを追加

5	10/27	<p>受領メッセージに受領数量が設定されていない場合、エラーとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JET 受領アダプタでは設定しているので問題なし。 ・仕入 T/R アダプタは設定していないので該当する。 	<p>本来は受領数量を設定すべきであるため、マッピングを納品数量から受領数量に変更し、各社に対応いただく。</p> <p>あわせて、スキーマが納品数量を必須にしているため、オプションとするように BM を修正する。</p>	仕様変更
6	10/28	<p>ASN、受領メッセージにおいて、納品伝票行番号がマッピングに設定されていない場合は、トレース情報が正常に表示されない。</p>	<p>納品伝票行番号を元にコンテキスト情報を管理していたため。別の必須項目(各社試験パス済み)である発注伝票行番号を参照するように BM を修正する。</p>	仕様変更
7	10/28	<p>C/S 型接続時、回復不可能なエラーが発生した際に無限リトライする</p>	<p>リトライ回数を制限する機能を追加</p>	バグ ID: 0183
8	10/28	<p>同一の伝票番号を持つデータを再送信するとエラーとなる</p>	<p>同一伝票番号の場合、新規コンテキスト生成処理が動作するが、この際に必要なコラボレーション ID を生成するロジックが誤っていたのを修正した</p>	バグ ID: 0180
9	11/4	<p>UTF-8 で BOM を含む XML データを受信するとエラーとなる</p>	<p>BOM を削除する機能を付与した</p>	バグ ID:192
10	11/8	<p>三交商事様データが送信されない。</p>	<p>三交商事様の取引先コードを元にして、ファイル名につけるパーティ名は SANKO ではなく SCMASP の誤り。</p> <p>取引先コードとパーティ名のマッピングを修正した。</p>	仕様変更

11	11/9	同一の伝票番号を持つデータを再送信するとエラーとなる	同一伝票番号の場合、新規コンテキスト生成処理が動作するが、この際に必要なコラボレーション ID を生成するロジックが誤っていたのを修正した (#8 と現象は同じであるが、コラボレーション ID 決定ロジック中に取引先コードの枝番への対応がもれていた)	バグ ID: 0191
12	11/11	花王様データの送受信に 90 分以上かかる	11/18 説明のとおり送受信ともに数十%の性能改善が可能であったので、対処モジュールを提供。 logwriter にも性能問題があったため、別途提供。(Windows 版のみ)	バグ ID:0193

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A1	1	発注伝票を拠点A(発注者ロール)から拠点Bへ送信する	明細数が20の発注伝票	1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	伝票・明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	8月30日	[5018]が受信成功ログ
A1			イベントスケジュールを停止しておく(トランザクション終了後に起動)			2	業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	8月30日	
A1						3		業務APアダプタが受信したコラボレーションIDを使ってBPCメッセージを生成していること	ログ	ログコード[AP-5011]が出力されていること	OK	8月30日	
A1						4		業務APアダプタがコンテキストIDを新規生成していること	ログ	ログコード[AP-5012]が出力されていること	OK	8月30日	[5013]が生成成功ログ
A1						5	トレース情報を生成すること	発注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	9月7日	
A11						6	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	8月30日	
A11						7	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベントの新規登録が1件行なわれていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索し、1件検索できること ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT_SUB]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	8月30日	
A11						8		イベント名が「発注受信」であること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[EVENT_NAME]が[AcceptOrderEvent]であること	OK	8月30日	
A11						9		登録されたイベントの状態が「実行済」となっていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[EVENT_STATUS_CODE]が[4](COMPLETED)であること	OK	8月30日	
A11						10		登録されたイベントのプロセスフロー名が登録されていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[PROCESS_FLOW_NAME]が[ordering]であること	OK	8月30日	
A11						11		登録されたイベントのロール名が「発注者ロール」となっていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[ROLE]が[buyer]であること	OK	8月30日	
A11						12		イベントに紐付くBPCメッセージの新規登録が1件行なわれていないこと	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[BPC.MESSAGE]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	8月30日	
A11						13		イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	8月30日	
A11						14	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベントの新規登録が1件行なわれていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索し、1件検索できること ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT_SUB]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	8月30日	
A11						15		イベント名が「発注送信」であること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[EVENT_NAME]が[SendOrderEvent]であること	OK	8月30日	
A11						16		登録されたイベントの状態が「実行待ち」となっていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[EVENT_STATUS_CODE]が[1](ACTIVATED)であること	OK	8月30日	
A11						17		登録されたイベントのプロセスフロー名が登録されていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[PROCESS_FLOW_NAME]が[ordering]であること	OK	8月30日	
A11						18		登録されたイベントのロール名が「発注者ロール」となっていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[ROLE]が[buyer]であること	OK	8月30日	
A11						19		イベントに紐付くBPCメッセージの新規登録が1件行なわれていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[BPC.MESSAGE]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	8月30日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A11						20		BPCメッセージの内容が業務情報 ファイルの内容と正しくマッピングされ ていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し [BPC_MESSAGE]テーブルを主キー検索する その行の[OBJECT_DATA]カラムのデータを[BpcMessage]に復 元する [BpcMessage]から[商品名カナ]を取得し(), 業務情報ファイ ルにおける[商品名カナ]と比較する . BpcMessageの内容を参照するツールを利用する	OK	8月30日	
A11						21		業務APより指定されたコラボレーショ ンIDがイベントに紐付いて登録されて いること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し [BPC_MESSAGE]テーブルを主キー検索する その行の[OBJECT_DATA]カラムのデータを[BpcMessage]に復 元する [BpcMessage]から[collaborationId]を取得し(), ログコード [AP-5012]における[collaborationId]と比較する . BpcMessageの内容を参照するツールを利用する	OK	8月30日	
A11						22		業務APが生成したコンテキストIDが イベントに紐付いて登録されているこ と	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し [BPC_MESSAGE]テーブルを主キー検索する その行の[OBJECT_DATA]カラムのデータを[BpcMessage]に復 元する [BpcMessage]から[contextId]を取得し(), ログコード[AP- 5012]における[contextId]と比較する . BpcMessageの内容を参照するツールを利用する	OK	8月30日	
A11						23		イベント登録成功の履歴が残されて いること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	8月30日	
A1						24	業務APアダプタからBPCヘデータ を引き渡し、業務APへ処理結果を 返すこと	業務APへ成功の処理結果が返され ること	その他	業務APに返されるHTTP Responseを確認する	OK	8月30日	
A1						25		業務APへの成功通知完了の履歴が 残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	8月30日	
A3				2	DB内のデータを 送信して、送信 が終了するまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこ と	プロセスの実行整合性チェックがOK であること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	8月30日	
A3						2	送信プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の 履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	8月30日	
A3						3		イベントスケジューラ起動直後、すぐ に実行されていること	ログ	BPCのプロセス実行履歴(ログコード[CONSTRAINT-3017])の実 行時間を確認する	OK	8月30日	
A3						4	BPCメッセージからJ-XML発注が 生成されること	J-XML生成成功の履歴が残されてい ること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1016]が出力されていること	OK	9月7日	
A3						5		業務APから受信したファイルの内容 が正しくJ-XMLにマッピングされてい ること	CSログ	通信サーバの通信ログと業務APから受信したファイルの内容を 突き合わせる	OK	8月31日	
A3						6		J-XMLで規定されていない業務情報 の項目のマッピングが正しく行なわれ ていること	CSログ	通信サーバの通信ログと業務APから受信したファイルの内容を 突き合わせる	OK	8月31日	
A3						7		商品のトレーサビリティに関する情報 のマッピングが正しく行なわれている こと	CSログ	通信サーバの通信ログと業務APから受信したファイルの内容を 突き合わせる	OK	9月8日	
A3						8		業務APアダプタが生成したコンテキ ストIDと同一のコンテキストIDがJ- XMLに設定されていること	CSログ	通信サーバの通信ログ、ログファイル(ログコード[EVENT - 6010])、DBの内容を突き合わせる	OK	8月31日	
A3						9		プロセスフロー定義上、起動したイベ ントの次のイベント名がJ-XMLに設 定されていること	CSログ	通信サーバの通信ログとプロセスフロー定義の内容を突き合わ せる	OK	8月31日	
A3						10	通信サーバ経由にて拠点Bへデー タ通信を行なうこと	拠点Bへ向けたebXMLでの通信が行 なわれていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	8月31日	
A3						11		BPCのログにて通信サーバへのデー タ送信成功の履歴が残されているこ と	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1018]が出力されていること	OK	8月31日	
A3						12		通信サーバのログにて送信成功の履 歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	8月31日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A3						13		取引のトレース情報が送信側BPCに登録されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[TRACE_INFO]テーブルを検索し、1件検索されること	OK	8月31日	
A3						14		BPCのログにて取引のトレース情報登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1017]が出力されていること	OK	9月3日	
A3						15		イベントの状態が正常終了に変更されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索し、[EVENT_STATUS_CD]が[4](COMPLETED)のものが1件増加していること	OK	8月31日	
A3						16	送信処理にかかる時間が性能要件を満たしていること	業務APから送信プロセス実行を受けてから通信サーバへ送信指示を出すまでの時間が5秒以内であること	ログ	ログコード[AP-5009]とログコード[COMMUNICATION-1013]の出力時間の差から算出する	OK	11月10日	
A3				3	データを受信してDBに入るまで	1	通信サーバよりJ-XMLを受信すること	通信サーバのログにてデータ受信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	8月31日	
A3						2		BPCのログにて通信サーバからのデータ受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1012]が出力されていること	OK	9月7日	
A3						3		J-XMLのスキーマチェックに成功していること	ログ	ログコード[BPC-6001]が出力されていること	OK	8月31日	
A3						4	J-XMLからBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1019]が出力されていること	OK	8月31日	
A3						5	受信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベントの新規登録が1件行なわれていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索し、1件検索できること	OK	8月31日	
A3						6		イベント名が「受注通知」であること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_NAME]が[ReceiveOrderEvent]であること	OK	8月31日	
A3						7		登録されたイベントの状態が「実行済み」となっていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_STATUS_CD]が[4](COMPLETED)であること	OK	8月31日	
A3						8		登録されたイベントのプロセスフロー名が登録されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[PROCESS_FLOW_NAME]が[ordering]であること	OK	8月31日	
A3						9		登録されたイベントのロール名が「受注者ロール」となっていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[ROLE]が[seller]であること	OK	8月31日	
A3						10		イベントに紐づくBPCメッセージの新規登録が1件行なわれていないこと	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_ID]を利用し[BPC_MESSAGE]テーブルを主キー検索し、1件検索できないこと	OK	8月31日	
A3						11		イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	8月31日	
A11						12	受信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベントの新規登録が1件行なわれていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索し、1件検索できること	OK	8月31日	
A11						13		イベント名が「受注通知」であること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_NAME]が[NoticeOrderEvent]であること	OK	8月31日	
A11						14		登録されたイベントの状態が「実行待ち」となっていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_STATUS_CD]が[2](WAIT)であること	OK	8月31日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A11						15		登録されたイベントのプロセスフロー名が登録されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[PROCESS_FLOW_NAME]が[ordering]であること	OK	8月31日	
A11						16		登録されたイベントのロール名が「受注者ロール」となっていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[ROLE]が[seller]であること	OK	8月31日	
A11						17		イベントに紐付くBPCメッセージの新規登録が1件行なわれていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1019]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_ID]を利用し[BPC_MESSAGE]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	8月31日	
A3						18		J-XMLに設定されたコラボレーションIDがイベントに紐付いて登録されていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[BPC_MESSAGE]テーブルを主キー検索するその行の[OBJECT_DATA]カラムのデータを[BpcMessage]に復元する [BpcMessage]から[collaborationId]を取得し(), 業務情報ファイルにおける[collaborationId]と比較する . BpcMessageの内容を参照するツールを利用する	OK	8月31日	
A3						19		J-XMLに設定されたコンテキストIDがイベントに紐付いて登録されていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[BPC_MESSAGE]テーブルを主キー検索するその行の[OBJECT_DATA]カラムのデータを[BpcMessage]に復元する [BpcMessage]から[contextId]を取得し(), 業務情報ファイルにおける[contextId]と比較する . BpcMessageの内容を参照するツールを利用する	OK	8月31日	
A11						20		イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	8月31日	
A2				4	DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	8月31日	
A2						2	通知プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	8月31日	
A2						3		イベント登録後、すぐに実行されていること	ログ	BPCのプロセス実行履歴(ログコード[CONSTRAINT-3017])の実行時間を確認する	OK	8月31日	
A2						4	トレース情報を生成すること	受注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1017]が出力されていること	OK	9月8日	
A2						5	トレース情報を記録すること	BPCメッセージに設定されたトレース情報が明細単位に記録されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-3017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[TRACE_INFO]テーブルを検索し、1件検索されること	OK	8月31日	
A2						6		BPCのログにてトレース情報登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5023]が出力されていること	OK	9月8日	
A2						7	BPCメッセージから業務情報ファイルが生成されること	BPCのログにて業務情報ファイル生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5017]が出力されていること	OK	9月7日	
A2						8		BPCメッセージの内容が正しく業務情報にマッピングされていること	その他	業務APIに引き渡す業務情報ファイルとDBのBPCメッセージの内容を突き合わせる	OK	9月8日	BTS#86 OK(9/28)
A2						9		J-XMLで規定されていない業務情報の項目のマッピングが正しく行なわれていること	その他	業務APIに引き渡す業務情報ファイルとDBのBPCメッセージの内容を突き合わせる コメントタイプ/付帯情報タイプにマッピングされていることを確認した。	OK	9月8日	
A2						10		商品のトレーサビリティに関する情報のマッピングが正しく行なわれていること	その他	業務APIに引き渡す業務情報ファイルとDBのBPCメッセージの内容を突き合わせる 仮に「納品経路」を商品のトレーサビリティとみなし、マッピングツールの設定で付帯情報にマッピングしたうえで、試験を実施し、実際にJ-XMLの付帯情報に値が設定されていることを確認した。	OK	9月8日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A2						11	受信イベントの状態を変更すること	実行したイベントの状態が「正常終了」であること	DB	ログコード[COMMUNICATION-3017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索する その行の[EVENT_STATUS_CD]が[4](COMPLETED)であること	OK	8月31日	
A2				5	拠点間データ通信	1	業務情報の確認	拠点Aの業務情報ファイルの内容と拠点Bの業務情報ファイルの内容が一致していること	その他	拠点Aの業務情報ファイルと拠点Bの業務情報ファイルを突き合わせる 9/8 15:30前後に実施 - 店コードが不一致 - 発注区分が不一致	OK	8月31日	81と同伴 OK(9/28)
A2						2	商品のトレース情報の確認	商品のトレーサビリティに関する情報のマッピングが正しく行なわれていること	その他	業務APIに引き渡す業務情報ファイルとDBのBPCメッセージの内容を突き合わせる 仮に「納品経路」を商品のトレーサビリティとみなし、マッピングツールの設定で付帯情報にマッピングしたうえで、試験を実施し、実際にJ-XMLの付帯情報に値が設定されていることを確認した。	OK	9月8日	#37と関連しているが、この項目はOKとする
A2						3	拠点Aのトレース情報	発注のトレース情報が参照できること	その他	トレース情報参照ツールを利用	OK	9月7日	
A2						4	拠点Bのトレース情報	受注のトレース情報が参照できること	その他	トレース情報参照ツールを利用	OK	9月7日	
A1		2 業務情報のデータが大きい(伝票数)	伝票数が5000、明細数が6件の発注データ	1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	伝票 - 明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	9月3日	
A1						2	業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	9月3日	
A1						3	トレース情報を生成すること	発注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						4	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベントの新規登録が1件行なわれていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索し、1件検索できること ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT_SUB]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	9月3日	
A1						5		イベントに紐付くBPCメッセージの新規登録が1件行なわれていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT_ID]を利用し[BPC_MESSAGE]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	9月3日	
A1						6		イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月3日	
A1						7	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへの成功通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	9月3日	
C1		3 大量データの送受信性能測定		1	DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	1	BPCメッセージからJ-XML発注が生成されること	J-XML生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1016]が出力されていること	OK	9月3日	
C1						2	通信サーバ経由にて拠点Bへデータ通信を行なうこと	拠点Bへ向けたebXMLでの通信が行なわれていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月24日	3号機->4号機 3) 21:02:08 ~ 21:05:53 4) 21:07:04 ~ 21:10:18
C1						3	送信処理にかかる時間が性能要件を満たしていること	業務APから送信プロセス実行を受けてから通信サーバへ送信指示を出すまでの時間が5秒以内であること	ログ	ログコード[AP-5009]とログコード[COMMUNICATION-1013]の出力時間の差から算出する	OK	11月10日	
C1				2	データを受信してDBに入るまで	1	通信サーバよりJ-XMLを受信すること	通信サーバのログにてデータ受信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月27日	
C1						2		BPCのログにて通信サーバからのデータ受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1012]が出力されていること	OK	9月28日	
C1						3		J-XMLのスキーマチェックに成功していること	ログ	ログコード[BPC-6001]が出力されていること	OK	9月29日	
C1						4	J-XMLからBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1019]が出力されていること	OK	9月30日	
C1				3	DBのデータを元に業務アプリ用	1	トレース情報を生成すること	受注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること [AP-5023]に変更	OK	10月2日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
C1					のデータができるまで	2	コンテキスト情報を記録すること	BPCメッセージに設定されたコンテキスト情報が明細単位に記録されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-3017]で出力された【CONTEXT_ID】を利用し【TRACE_INFO】テーブルを検索し、1件検索されること	OK	10月3日	
C1						3	BPCメッセージから業務情報ファイルが生成されること	BPCのログにて業務情報ファイル生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード【AP-5017】が出力されていること	OK	10月5日	
C1				4	拠点間データ通信	1	業務情報の確認	拠点Aの業務情報ファイルの内容と拠点Bの業務情報ファイルの内容が一致していること	その他	拠点Aの業務情報ファイルと拠点Bの業務情報ファイルを突き合わせる	OK	9月3日	
C1						2	拠点Aのトレース情報	発注のトレース情報が参照できること	DB	トレース情報参照ツールを利用	OK	10月5日	伝票1182351で確認
C1						3	拠点Bのトレース情報	受注のトレース情報が参照できること	DB	トレース情報参照ツールを利用	OK	10月5日	伝票1182351で確認
C1						4	受信処理にかかる時間が性能要件を満たしていること	通信サーバから受信し業務APへ業務情報ファイルが作成されるまでの時間が5秒以内であること	ログ	ログコード【COMMUNICATION-1012】とログコード【AP-5017】の出力時間の差から算出する	OK	11月12日	
A7	4	2拠点向けのデータの送受信		1	データを受信してDBに入るまで	1	通信サーバよりJ-XMLを受信すること	通信サーバのログにて拠点【A】、拠点【B】からのデータ受信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログの時刻を確認	OK	9月6日	
A7						2		上記の場合、拠点【A】、拠点【B】からのデータ受信処理が並行に動作していること	CSログ	通信サーバの通信ログの時刻を確認	OK	11月1日	
A7						3		BPCのログにて通信サーバから拠点【A】、拠点【B】からのデータ受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード【COMMUNICATION-1012】が出力されていること ・通信元の特定はログに出力されたコンテキストIDと通信ログに出力されたコンテキストIDを比較し行なう	OK	9月6日	
A7						4		上記の場合、拠点【A】、拠点【B】からのデータ受信処理が並行に動作していること	ログ	ログコード【COMMUNICATION-1012】が出力されていること ・通信元の特定はログに出力されたコンテキストIDと通信ログに出力されたコンテキストIDを比較し行なう	OK	9月29日	
A7						5	J-XMLからBPCメッセージを生成すること	拠点【A】および拠点【B】から受信したJ-XMLデータを使ってBPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード【COMMUNICATION-1019】が出力されていること ・通信元の特定はログに出力されたコンテキストIDと通信ログに出力されたコンテキストIDを比較し行なう	OK	9月6日	
A7						6		上記の場合、拠点【A】、拠点【B】から受信したJ-XMLデータを使ってBPCメッセージ生成処理が並行に動作していること	ログ	ログコード【COMMUNICATION-1019】が出力されていること ・通信元の特定はログに出力されたコンテキストIDと通信ログに出力されたコンテキストIDを比較し行なう	OK	9月29日	
A7						7	受信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベントの新規登録が2件行なわれていること	DB	ログコード【COMMUNICATION-1019】で出力された【CONTEXT_ID】を利用し【EVENT】テーブルを検索し、1件検索できること ログコード【COMMUNICATION-1019】で出力された【CONTEXT_ID】を利用し【EVENT_SUB】テーブルを検索し、1件検索できること	OK	9月6日	実際には2*2=4件
A7						8		上記の場合、J-XMLに設定されたコラボレーションIDがそれぞれ正しくイベントに紐付いて登録されていること	DB	ログコード【COMMUNICATION-1019】で出力された【CONTEXT_ID】を利用し【EVENT】テーブルを検索し、1件検索できること 検索した行の【CONTEXT_ID】がログコード【COMMUNICATION-1019】で出力された【CONTEXT_ID】と一致していること	OK	9月6日	
A7						9		上記の場合、J-XMLに設定されたコンテキストIDがそれぞれ正しくイベントに紐付いて登録されていること	DB	ログコード【COMMUNICATION-1019】で出力された【CONTEXT_ID】を利用し【BPC_MESSAGE】テーブルを検索し、1件検索する その行の【OBJECT_DATA】カラムのデータを【BpcMessage】に復元する 【BpcMessage】から【コラボレーションID】を取得し()、ログコード【COMMUNICATION-1019】で出力された【コラボレーションID】と比較する	OK	9月6日	
A7						10		イベント登録成功の履歴が2件残されていること	ログ	ログコード【EVENT-2018】が出力されていること	OK	9月6日	実際には2*2=4件
A2				2	DBのデータを元に業務アプリ用	1	通知プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が2件残されていること	ログ	ログコード【CONSTRAINT-3017】が出力されていること	OK	9月6日	ログコード【CONSTRAINT-3016】が開始ログ

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A2					のデータができるまで	2	トレース情報を生成すること	受注のトレース情報が新規に2件生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	9月7日	
A2						3	BPCメッセージから業務情報ファイルが生成されること	BPCのログにて業務情報ファイル生成成功の履歴が2件残されていること	ログ	ログコード[AP-5017]が出力されていること	OK	9月6日	
A2						4	受信イベントの状態を変更すること	実行したイベントの状態が2件とも「正常終了」であること	DB	ログコード[COMMUNICATION-3017]で出力された[CONTEXT.ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索するその行の[EVENT.STATUS_CD]が[4](COMPLETED)であること	OK	9月6日	
A7				3	拠点間データ通信	1	拠点Cのトレース情報	受注のトレース情報が2件参照できること	DB	トレース情報参照ツールを利用	OK	9月6日	[TRACE.INFO]テーブルをコンテキストIDで行数をカウント
A7						2	業務情報の確認	拠点Aの業務情報ファイルの内容と拠点Bの業務情報ファイルの内容が一致していること	その他	拠点Aの業務情報ファイルと拠点Bの業務情報ファイルを突き合わせる	OK	9月6日	
A8	5	業務APが(2つ同時に)BPCへ送信を行なう場合		1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	伝票 - 明細形式で記述された業務情報ファイルA、業務情報ファイルBを同時に業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	2004/9/2 9/7再	
A8						2		履歴の受信開始時刻と受信終了時刻がほぼ同一時刻であること(並行に業務情報ファイルA、業務情報ファイルBを受信していること)	ログ	業務情報ファイルA、業務情報ファイルBを処理するログコード[AP-5018]、ログコード[AP-5009]が同一のタイミングで出力されていること	OK	2004/9/2 9/7再 9/8再	
A8						3	業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	2004/9/2 9/7再	9/7 21:29:39 3号機で確認
A8						4		業務APアダプタが受信したコラボレーションIDを使ってBPCメッセージを生成していること	ログ	ログコード[AP-5011]が出力されていること	OK	2004/9/2 9/7再	
A8						5		業務APアダプタがコンテキストIDを新規生成していること	ログ	ログコード[AP-5013]が出力されていること	OK	2004/9/2 9/7再	項目誤り、5012 5013でOK
A8						6	トレース情報を生成すること	発注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	2004/9/2 9/7再	
A8						7	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベントの新規登録が2件行なわれていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT.ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索し、1件検索できること ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT.ID]を利用し[EVENT.SUB]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	2004/9/2 9/7再	9/7 21:29:39 3号機で確認 EVENT.IDが*7e0c、*0d13、*89a、*ef5の4つあることを確認 (EVENT-2018も4件でている)
A8						8		イベントに紐付くBPCメッセージの新規登録が2件行なわれていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT.ID]を利用し[BPC.MESSAGE]テーブルを主キー検索し、1件検索できること	OK	2004/9/2 9/7再	9/7 21:29:39 3号機で確認 *ef5と*0d13を確認
A8						9		業務APより指定されたコラボレーションIDがイベントに紐付いて登録されていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT.ID]を利用し[BPC.MESSAGE]テーブルを主キー検索するその行の[OBJECT.DATA]カラムのデータを[BpcMessage]に復元する [BpcMessage]から[collaborationId]を取得し()、ログコード[AP-5012]における[collaborationId]と比較する . bin/bpc/inspectBpcMessage イベントID で情報取得	OK	2004/9/2 9/7再 9/29完	#5待ち コンテキストIDを確認。 ff4974f1c0a80302008dbf31258146ec イベントID: ff4974f2c0a8030200c8c89286fdc6ff 2号機 9/29 18:00前後
A8						10		業務APが生成したコンテキストIDがイベントに紐付いて登録されていること	DB	ログコード[EVENT-2018]で出力された[EVENT.ID]を利用し[BPC.MESSAGE]テーブルを主キー検索するその行の[OBJECT.DATA]カラムのデータを[BpcMessage]に復元する [BpcMessage]から[contextId]を取得し()、ログコード[AP-5012]における[contextId]と比較する . bin/bpc/inspectBpcMessage イベントID で情報取得	OK	2004/9/2 9/7再 9/29完	#5待ち コンテキストIDを確認。 ff4974f5c0a8030200c442dbbc51e7cd イベントID: ff4974f7c0a8030201d484c321c02ea0 2号機 9/29 18:00前後
A8						11		イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	2004/9/2 9/7再	4件出力を確認
A8						12	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへ成功の処理結果が2つ返されること	その他	業務APIに返されるHTTP Responseを確認する	OK	2004/9/2 9/7再	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A8						13		業務APへの成功通知完了の履歴が2つ残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	9月28日	18:11:01および18:11:02の2件
A8	6	多数同時にBPCに接続する場合		1	平行動作時の性能低下が著しくないこと	1		単発x2と2並列の処理時間を測定する。	ログ	ログBM-3016からBM-3017までの出力時間を確認する	OK	11月1日	
A8					Apサーバのスレッド数を増加させると接続可能数が増加すること	2		処理時間が一定以上かかるサイズのデータを用意して、連続して業務データをBMに送信する	ログ	並列動作している数を確認する。	OK	11月3日	
A8					業務データ投入数とJ-XML送信データ数が一致すること	3		ログの行数を比較する	ログ		OK	11月3日	
A8					業務データの内容とJ-XML送信データの内容が一致していること	4		ひとつずつ内容の異なるデータを投入し、通信サーバのログと比較する	ログ /CSログ		OK	11月3日	
A8	7	1つの拠点にて業務APへ同一時刻で2つの送信を行なう場合	業務情報ファイルで送信先が異なっていること	1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]のデータファイルを渡してDBに入るまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日	
A8					DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	2	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[DB内のデータを送信して、送信が終了するまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日	
A8					データを受信してDBに入るまで	3	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[データを受信してDBに入るまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日	
A8					DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	4	通知プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が2つ残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月2日	ログコード[CONSTRAINT-3016]が開始ログ
A8						5	トレース情報を生成すること	受注のトレース情報が新規に2つ生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	9月7日	
A8						6	トレース情報を記録すること	2つ分のBPCメッセージに設定されたトレース情報が明細単位に記録されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-3017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[TRACE_INFO]テーブルを検索し、1件検索されること	OK	9月2日	
A8						7		BPCのログにてトレース情報登録成功の履歴が2つ分残されていること	ログ	ログコード[AP-5023]が出力されていること	OK	9月8日	
A8						8	BPCメッセージから業務情報ファイルが生成されること	2つのBPCのログにて業務情報ファイル生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5017]が出力されていること	OK	9月7日	
A8						9		2つのBPCメッセージの内容が混在せず業務情報にマッピングされていること	その他	業務APに引き渡す業務情報ファイルとDBのBPCメッセージの内容を突き合わせる	OK	9月2日	
A8						10	受信イベントの状態を変更すること	実行したイベントの状態が2つとも'正常終了'であること	DB	ログコード[COMMUNICATION-3017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索するその行の[EVENT_STATUS_CD]が[4](COMPLETED)であること	OK	9月2日	
A1	8	複数の送信先へ送る業務情報ファイルを受信した場合	コラボレーションがそれぞれ2つずつ含まれている	1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	複数の送信先が指定された業務情報ファイルを業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						2	業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						3		上記の場合、送信先別、コラボレーション別に生成していること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	9月7日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A1						4		業務APアダプタが受信したコラボレーションIDを使ってBPCメッセージを生成していること	ログ	ログコード[AP-5011]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						5		業務APアダプタがコンテキストIDを新規生成していること	ログ	ログコード[AP-5012]が出力されていること	OK	9月7日	
A7						6		上記の場合、送信先別に生成していること	ログ	ログコード[AP-5012]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						7	トレース情報を生成すること	発注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						8		上記の場合、送信先別、コラボレーション別に生成していること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						9	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						10	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月7日	
A7						11		上記の場合、送信先別、コラボレーション別に生成していること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月7日	
A1						12	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへ成功の処理結果が返されること	その他	業務APIに返されるHTTP Responseを確認する	OK	9月7日	
A1						13		業務APへの成功通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	9月7日	
A3					DB内のデータを 送信して、送信 が終了するまで	1	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[DB内のデータを送信して、送信が終了するまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月7日	
A3						2		上記の場合、送信先別、コラボレーション別に行なわれていること	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月7日	
A3					データを受信してDBに入るまで	1	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[データを受信してDBに入るまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月7日	
A3						2		上記の場合、送信先別、コラボレーション別に行なわれていること	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月7日	
A2					DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	1	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月7日	
A2						2		上記の場合、送信先別、コラボレーション別に行なわれていること	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月7日	
A7					拠点間データ通信	1	業務情報の確認	拠点Aの業務情報ファイルの内容と拠点Bの業務情報ファイルの内容が一致していること	その他	拠点Aの業務情報ファイルと拠点Bの業務情報ファイルを突き合わせる	OK	9月7日	
A7						2	拠点Aのトレース情報	発注のトレース情報が参照できること	DB	トレース情報参照ツールを利用	OK	9月7日	
A7						3	拠点Bのトレース情報	受注のトレース情報が参照できること	DB	トレース情報参照ツールを利用	OK	9月7日	
A9		9 連続で送受信を行なう	10秒間隔で伝票1、明細30のデータを連続で100回送受信する	1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	伝票 - 明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						2	業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	9月7日	
A9			テストの実施においてログの内容については確認を行わない(100回出力していることだけを確認する)			3		業務APアダプタが受信したコラボレーションIDを使ってBPCメッセージを生成していること	ログ	ログコード[AP-5011]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						4		業務APアダプタがコンテキストIDを新規生成していること	ログ	ログコード[AP-5012]が出力されていること	OK	9月7日	ログコード[AP-5013]が生成ログ
A9						5	トレース情報を生成すること	発注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	9月7日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A9						6	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月7日	ログに200件の[BPC-6002]が出力されている事を確認(確認項目番号10とあわせて200件出力されるのが正しい)
A9						7	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月7日	ログに200件の[EVENT-2018]が出力されている事を確認(1回の送信処理でAcceptとSendの2つのイベントが登録されるため)
A9						8	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへの成功通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	9月7日	
A9				2	DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月7日	ログに200件の[BPC-6002]が出力されている事を確認(確認項目番号7とあわせて200件出力されるのが正しい)
A9						2	送信プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月7日	ログに200件の[CONSTRAINT-3017]が出力されている事を確認(確認項目番号12とあわせて200件出力されるのが正しい)
A9						3		イベントスケジュー起動直後、すぐに実行されていること	ログ	BPCのプロセス実行履歴(ログコード[CONSTRAINT-3017])の実行時間を確認する	OK	9月7日	ログに200件の[CONSTRAINT-3017]が出力されている事を確認(確認項目番号11とあわせて200件出力されるのが正しい)
A9						4	BPCメッセージからJ-XML発注が生成されること	J-XML生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1016]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						5	通信サーバ経由にて拠点Bへデータ通信を行なうこと	拠点Bへ向けたebXMLでの通信が行なわれていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	[<eb:PartyId eb:type="urn:dsri-dcc-or-jp:partyid-type:GLN">party4</eb:PartyId>]を含むファイルが100個できていることを確認
A9						6		BPCのログにて通信サーバへのデータ送信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1018]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						7		通信サーバのログにて送信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	
A9				3	データを受信してDBに入るまで	1	通信サーバよりJ-XMLを受信すること	通信サーバのログにてデータ受信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	
A9						2		BPCのログにて通信サーバからのデータ受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1012]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						3		J-XMLのスキーマチェックに成功していること	ログ	ログコード[BPC-6001]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						4	J-XMLからBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1019]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						5	受信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月7日	ログに200件の[EVENT-2018]が出力されている事を確認(1回の送信処理でAcceptとSendの2つのイベントが登録されるため)
A9				4	DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						2	通知プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						3	トレース情報を生成すること	受注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1017]が出力されていること	OK	9月8日	BTS#47
A9						4	BPCメッセージから業務情報ファイルが生成されること	BPCのログにて業務情報ファイル生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5017]が出力されていること	OK	9月7日	
A9				5	拠点間データ通信	1	連続実行中に中断が発生していないこと	エラーの履歴が残されていないこと	ログ	BPCのログをgrepする	OK	9月7日	[ERROR] [WARN] [EXCEPTION] でgrep

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A9						2	業務情報の確認	拠点Aの業務情報ファイルの内容と 拠点Bの業務情報ファイルの内容が 一致していること	その他	拠点Aの業務情報ファイルと拠点Bの業務情報ファイルを突き合 わせる	OK	9月7日	10%の無作為抜き取りで生成された 業務情報ファイルの内容を確認
A9				6	性能評価	1	テスト実施中にサーバの効率性に ついて劣化がみられないこと	テスト実施中にCPUの利用率を確認 する	その他	Windowsのパフォーマンスツールにて記録	OK	9月7日	テスト中のCPUの平均利用率: 4.783% (閾値は85%)
A9						2		テスト実施中にメモリの利用率を確認 する	その他	Windowsのパフォーマンスツールにて記録	OK	9月7日	テスト中のプロセスに利用可能な物 理メモリの平均サイズ: 1020MByte (閾値は4MByte)
A9				7	データを受信し てDBに入るまで	1	通信サーバよりJ-XMLを受信する こと	通信サーバのログにてデータ受信成 功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	9/7 23:06に実施
A9						2		BPCのログにて通信サーバからの データ受信成功の履歴が残されてい ること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1012]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						3		J-XMLのスキーマチェックに失敗して いること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1014]が出力されていること	OK	9月7日	
A9						4		イベント情報の新規登録が行なわれ ていないこと	DB	テスト実行前にイベントの登録件数を確認しておき、テスト実行後 にイベントの件数が増えていないこと	OK	9月7日	40件 40件
A12	10	コラボレーション定義の 誤り (利用する設定情報が 存在しない)	送信時にコラボレー ション情報が設定さ れていない場合 先に登録済みイベ ントの件数を確認し ておく	1	データファイルを 渡してDBに入る まで	1	伝票 - 明細形式で記述された業 務情報ファイルを業務APから受信 できること	データの受信成功の履歴が残されて いること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	8月31日	
A12						2	業務情報からBPCメッセージを生 成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残 されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	8月31日	
A12						3	プロセス整合性チェックを行なうこ と	プロセスの実行整合性チェックがNG であること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3007]が出力されていること	OK	8月31日	
A12						4		上記の場合、NG理由が「存在しない コラボレーションIDを指定した」とい うことがログから判定できること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3007]が出力されていること 3008、5015、3008、スタックトレース、5006、3008、スタックトレ ース、5022の順にエラーが表示されたのを確認。	OK	8月31日	
A12						5	イベントの新規登録が1件行なわれ ていないこと	イベント管理テーブルおよびイベント 管理サブテーブルの件数に変化がな いこと	DB	テスト実行前にイベントの登録件数を確認しておき、テスト実行後 にイベントの件数が増えていないこと	OK	8月31日	
A12						6	業務APアダプタからBPCへデータ を引き渡し、業務APへ処理結果を 返すこと	業務APへ成功の処理結果が返され ること	その他	業務APIに返されるHTTP Responseを確認する	OK	8月31日	
A12						7		業務APへの成功通知失敗の履歴が 残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	8月31日	
A12						8		上記の場合、NG理由が「存在しない コラボレーションIDを指定した」とい うことがログから判定できること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	8月31日	スタックトレースが出力される これにより確認が必要 OK
A12	11	コラボレーション定義の 誤り (利用する設定情報が 存在しない)	送信側では有効だ が、受信側では有 効ではない(コラポ レーション定義ファ イルに記述されてい ない)コラボレーシ ョンIDを利用する	1	データファイルを 渡してDBに入る まで	1	[簡易チェック(テストシナリオ項目 #45)]の[データファイルを渡して DBに入るまで]の確認内容が全て 確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月1日	
A12				2	DB内のデータを 送信して、送信 が終了するまで	1	[簡易チェック(テストシナリオ項目 #45)]の[DB内のデータを送信し て、送信が終了するまで]の確認 内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月1日	
A12			コラボレーション定 義の誤り(定義誤 り)	3	不正なプロファ イル情報	1	起動時にエラーログが出力される こと		ログ	ログコード[AP-4002]が出力されていること	OK	9月1日	
A12				4	不正なプロセス 名	1	起動時にエラーログが出力される こと		ログ	ログコード[BM-3018]が出力されていること	OK	9月1日	
A12				5	同一名称で複数 のコラボレーシ ョンを定義	1	起動時にエラーログが出力される こと		ログ	ログコード[BM-3015]が出力されていること	OK	9月1日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A12	12	コラボレーション定義の誤り (実施ロールが間違っている)	先に登録済みイベントの件数を確認しておく	1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	伝票・明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	9月1日	[5018]が受信成功ログ
A12						2	業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	9月1日	
A12						3		業務APアダプタが受信したコラボレーションIDを使ってBPCメッセージを生成していること	ログ	ログコード[AP-5011]が出力されていること	OK	9月1日	
A12						4		業務APアダプタがコンテキストIDを新規生成していること	ログ	ログコード[AP-5012]が出力されていること	OK	9月1日	[5013]が生成成功ログ
A12						5	トレース情報を生成すること	発注のトレース情報が新規に生成されていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	9月8日	BTS#47
A12						6	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがNGであること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3010]が出力されていること	OK	9月1日	
A12						7		上記の場合、NG理由が「担当ロールでは実施しないプロオスである」ということがログから判定できること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3010]が出力されていること	OK	9月1日	
A12						8	イベントの新規登録が1件行なわれていないこと	イベント管理テーブルおよびイベント管理サブテーブルの件数に変化がないこと	DB	テスト実行前にイベントの登録件数を確認しておき、テスト実行後にイベントの件数が増えていること	OK	9月1日	
A12						9	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APに何らかのHTTP Responseが返ることを確認する	その他	業務AP(テストServletを呼び出したブラウザ)にHTTP Responseが返ること	OK	9月8日	
A12						10		業務APに何らかの完了通知が返ることを確認する	その他	ログ[]が出力されていること AP-5022を確認。	OK	9月8日	
A12						11		業務APへの成功通知失敗の履歴が残されていること	ログ	業務APに返されるHTTP Responseの内容がNGであることを確認する stack traceが出力されることを確認した	OK	9月1日	
A12						12		上記の場合、NG理由が「担当ロールでは実施しないプロオスである」ということがログから判定できること	ログ	業務APに返されるHTTP Responseを確認する ログ5006で原因文字列が出力されていることを確認済み	OK	9月1日	スタックトレースが出力される これでよいか確認が必要
A1	13	BPCを停止させ、再起動した場合(スケジュールの状態も確認する)	微妙なタイミングでの停止は行なわない 受信データの永続化、業務APへの応答が終了してから停止 先にBPCのプロセス名、イベントスケジュールのプロセス名を確認しておく	1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	伝票・明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	9月2日	
A1						2	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベントの新規登録が1件行なわれていること	DB	イベント管理テーブルおよびイベント管理サブテーブルに1件登録されていること	OK	9月2日	実際には4件登録される
A1						3		イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月2日	
A1						4	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへ成功の処理結果が返されること	その他	業務APに返されるHTTP Responseを確認する	OK	9月2日	
A1						5		業務APへの成功通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	9月2日	
A10				2	再起動の実施	1	イベントスケジュールを停止させる	イベントスケジュールのプロセスが存在していないこと	その他	プロセスモニターを参照しイベントスケジュールプロセスが存在していない事を確認する	OK	9月2日	
A10						2	BPCを停止させる	BPCが正常終了した履歴が残されていること	その他	プロセスモニターを参照しBPCプロセスが存在していない事を確認する	OK	9月2日	
A10						3	(送信イベントの送信時刻が過ぎた後)BPCを起動する	BPCが正常起動した履歴が残されていること	ログ	ログコード[BPC-6005]が出力されていること	OK	9月2日	
A10						4	イベントスケジュールを起動させる	イベントスケジュールが正常起動した履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2019]が出力されていること	OK	9月2日	
A3				3	DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこと	上記の後、すぐに行なわれていること プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月2日	
A3						2	送信プロセスが実行されること	送信プロセスを実行した履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月2日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A3						3	BPCメッセージからJ-XML発注が生成されること	J-XML生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1016]が出力されていること	OK	9月2日	
A3						4	通信サーバ経由にて拠点Bへデータ通信を行なうこと	拠点Bへ向けたebXMLでの通信が行なわれていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月2日	
A3						5		BPCのログにて通信サーバへのデータ送信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1018]が出力されていること	OK	9月2日	
A3						6		通信サーバのログにて送信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月2日	
A3						7		BPCのログにて取引のトレース情報登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1017]が出力されていること	OK	9月2日	
A3						8		イベントの状態が正常終了に変更されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索し、[EVENT_STATUS_CD]が[4](COMPLETED)のものが1件増加していること	OK	9月2日	
A3					4	データを受信してDBに入るまで	1 [簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[データを受信してDBに入るまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日	
A2					5	DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	1 [簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日	
A14					6	拠点間データ通信	1 業務情報の確認	拠点Aの業務情報ファイルの内容と拠点Bの業務情報ファイルの内容が一致していること	その他	拠点Aの業務情報ファイルと拠点Bの業務情報ファイルを突き合わせる	OK	9月2日	
A10	14	コラボレーション定義を修正し、再読込させた場合	テスト項番10 [コラボレーション定義の誤り(コラボレーションIDが存在しない)]の続き	1	コラボレーション定義の再読込	1 コラボレーション定義を再読込する	BPCのログにてコラボレーション定義再読込成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[BPC-6004]が出力されていること	OK	9月8日		
A10				2	プロセスの再実行	1 伝票 - 明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	9月2日		実施 2004/9/7 22:26:53
A10						2 業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	9月2日		
A10						3 送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月2日		
A10						4 業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへの成功通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	9月2日		
A10				3	DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	1 [簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[DB内のデータを送信して、送信が終了するまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日		
A10				4	データを受信してDBに入るまで	1 [簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[データを受信してDBに入るまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日		
A2				5	DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	1 [簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	5016、5023は6009、5020で読み替えて確認	OK	9月2日	
A13	15	[データ送信時]業務情報ファイルが読み取れなかった場合		1	業務情報ファイルに読み取り権限がなかった場合	1 伝票 - 明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できないこと	データの受信失敗の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5006]が出力されていること	OK	9月7日		
A13						2		上記の場合、NG理由が「業務情報ファイルの読み込みに失敗した」ということがログから判定できること	ログ	ログコード[AP-5006]が出力されていること	OK	9月7日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)				
A13						3		業務APへ失敗の処理結果が返されること	その他	業務APに返されるHTTP Responseを確認する	OK	9月1日					
A13						4		上記の場合、NG理由が「業務情報ファイルの読み込みに失敗した」ということが判定できること	その他	業務APに返されるHTTP Responseを確認する	OK	9月7日					
A13							2	業務情報ファイルが存在しない場合	1	伝票 - 明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できないこと	データを受信失敗の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5006]が出力されていること	OK	9月7日		
A13								2		上記の場合、NG理由が「業務情報ファイルの読み込みに失敗した」ということがログから判定できること	ログ	ログコード[AP-5006]が出力されていること	OK	9月7日			
A13								3		業務APへ失敗の処理結果が返されること	その他	業務APに返されるHTTP Responseを確認する	OK	9月1日			
A13								4		上記の場合、NG理由が「業務情報ファイルの読み込みに失敗した」ということが判定できること	その他	業務APに返されるHTTP Responseを確認する	OK	9月7日			
A13							3	その他の異常	1	[送信時] 業務情報ファイルの内容を変換できなかった場合	業務情報ファイル読み込み時にエラーが通知されること。処理は継続されること	ログ	ログコード[AP-5008]が出力されていること	OK	9月7日		
A13						2			[送信時] 少数を含む業務情報ファイル	正常に処理できること	ログ	XML中に小数つきでデータが作成されていること	OK	10月3日	Decimal対応に仕様変更		
A13						3			[送信時] 変換不可能な日時を含む業務情報ファイル	業務情報ファイル読み込み時にエラーが通知されること。処理は継続されること	ログ	ログコード[BM-3012]が出力されていること	OK	9月1日			
A13						4			[送信時] 必須項目がない業務情報ファイル	業務情報ファイル読み込み時にエラーが通知されること。処理は継続されること	ログ	ログコード[AP-5003]が出力されていること	OK	9月9日			
A13						5			[送信時] 変換不可能な日時を含む業務情報ファイル	業務情報ファイル読み込み時にエラーが通知されること。処理は継続されること	ログ	ログコード[AP-5002]が出力されていること	OK	9月8日			
A13						6			[送信時] 必須項目が空白文字の業務情報ファイル	業務情報ファイル読み込み時にエラーが通知されること。処理は継続されること	ログ	ログコード[AP-5008]が出力されていること	OK	9月8日			
A13						7			[送信時] コラボレーション指定がない業務情報ファイル	BPCへの送信時にエラーが通知されること	ログ	[BM-3013]が出力されていること	OK	9月8日			
A13						8			[送信時] 値が設定範囲外	業務情報ファイル読み込み時にエラーが通知されること。処理は継続されること	ログ	ログコード[AP-5003]が出力されていること	OK	9月7日			
A13						9			ファイルフォーマットが不正	起動時にエラーログが出力されること	ログ	ログコード[AP-5005]が出力されていること	OK	9月7日			
A13						10			0行の業務情報ファイル	空のデータとしてイベントが登録されること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月28日			
A13						16	マッピング設定ファイルが読み込めない場合		1	ファイルが存在しない	起動時にエラーログが出力されること	ログ	ログコード[AP-5005]が出力されていること	OK	9月28日		
A13						2			ファイルフォーマットが不正	起動時にエラーログが出力されること	ログ	ログコード[AP-5005]が出力されていること	OK	9月28日			
A13						17	[データ受信時]業務情報ファイルが書き込めなかった場合		1	データファイルを渡してDBに入るまで	1 [簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[データファイルを渡してDBに入るまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日	
A13									2	DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	1 [簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[DB内のデータを送信して、送信が終了するまで]の確認内容が全て確認できること	拠点Bへ向けたebXMLでの通信が行なわれていること	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日	
A13									3	データを受信してDBに入るまで	1 [簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[データを受信してDBに入るまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月8日	
A13									4	DBのデータを元に業務アプリ用	1 通知プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月1日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A13					のデータができるまで	2		イベント登録後、すぐに実行されていること	ログ	BPCのプロセス実行履歴(ログコード[CONSTRAINT-3017])の実行時間を確認する	OK	9月1日	
A13						3	BPCメッセージから業務情報ファイルが生成されること	BPCのログにて業務情報ファイル生成失敗の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5007]が出力されていること	OK	9月1日	
A13						4		上記の場合、NG理由が「業務情報ファイルの書き込みに失敗した」ということが判定できること	ログ	ログコード[AP-5007]が出力されていること	OK	9月1日	
A13						5	受信イベントの状態を変更すること	実行したイベントの状態が「異常終了」であること	DB	ログコード[COMMUNICATION-3017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索する その行の[EVENT_STATUS_CD]が「7」(ERROR_EXITED)であること	OK	9月6日	
A15	18	送信相手のサーバが落ちている場合		1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【データファイルを渡してDBに入るまで】の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月1日	
A15				2	LAN線を切断	1	LAN線ははずし、通信を遮断する	ping が通っていない事を確認する。	その他	MS-DOSにてpingコマンドを実施	OK	9月1日	
A15				3	DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	1	送信プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月1日	
A15						2	通信サーバ経由にて拠点Bへデータ通信を行なうこと	拠点Bへ向けたebXMLでの通信が行なわれていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月1日	
A15						3		通信サーバが検知した例外がログ出力されていること	ログ	ログコード[DISPATCH-4003]が出力されていること	OK	9月1日	
A15						4		上記の場合、NG理由が「通信に失敗した」ということが判定できること	ログ	ログコード[DISPATCH-4003]が出力されていること	OK	9月1日	
A15						5		実行されたイベントの状態が「送信処理完了が不明」となっていること	DB	ログコード[DISPATCH-4003]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索する [EVENT_NAME]が[SendOrderEvent]である行の[EVENT_STATUS_CD]が「11」(DIRTY)であること	OK	9月1日	
A15						6		実行されたイベントの異常終了ステータスコードが「リトライ可」となっていること	DB	ログコード[DISPATCH-4003]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索する [EVENT_NAME]が[SendOrderEvent]である行の[EVENT_SUB]テーブルの[ERROR_STATUS_CD]が「2」(RETRY_POSSIBLE)であること	OK	9月1日	
A15						7		実行されたイベントの送信ステータスコードが「リトライ可」となっていること	DB	ログコード[DISPATCH-4003]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索する [EVENT_NAME]が[SendOrderEvent]である行の[EVENT_SUB]テーブルの[SEND_STATUS_CD]が「1」(SENDING)であること	OK	9月1日	
A15						8		通信サーバのログにて送信失敗の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月1日	
A15				4	線をつなぎなおす	1	LAN線をつなぎなおし、通信を可能にする	ping が通る事を確認する。	その他	MS-DOSにてpingコマンドを実施	OK	9月1日	
A15				5	データを受信してDBに入るまで	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【データを受信してDBに入るまで】の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月7日	
A15				6	DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで】の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	9月7日	
A14	19	DBがリポートした場合(スケジューラの状態も確認する)	微妙なタイミングでのリポートは行なわない 受信データの永続化、業務APへの応答が終了してから	1	DBのリポート中	1	DBリポート中はイベントスケジューラが起動イベント検索、およびイベント実行に失敗すること	イベントスケジューラのログにて実行イベント検索失敗の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2021]が出力されていること	OK	9月2日	
A14						2		起動予定時刻に達したイベントが実行されないこと	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていないこと	OK	9月2日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A14			停止			3	伝票・明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できないこと	データの受信失敗の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5006]が出力されていること	OK	9月2日	
A14						4		上記の場合、NG理由が「BPCで致命的なエラーが発生した」ということがログから判定できること	ログ	ログコード[AP-5006]が出力されていること	OK	9月2日	
A14						5		業務APへ失敗の処理結果が返されること	その他	業務APIに返されるHTTP Responseを確認する	OK	9月2日	
A14						6		上記の場合、NG理由が「BPCで致命的なエラーが発生した」ということがログから判定できること	その他	業務APIに返されるHTTP Responseを確認する	OK	9月2日	
A14						7		業務APへの失敗通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されている ログコード5006を確認	OK	9月8日	
A14						8		上記の場合、NG理由が「BPCで致命的なエラーが発生した」ということがログから判定できること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること ログ5022の出力内容が変 (BTS#85)	OK	9月2日	
A14						9	通信サーバから受信したJ-XMLファイルを処理できないこと	通信サーバのログにてデータ受信の履歴が残されていないこと	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月2日	
A14				2	DBリブート終了後	1	DBリブート後はのイベントスケジューラが起動イベント検索、およびイベント実行に成功すること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月2日	
A14						2		イベントの状態が正常終了に変更されていること	DB	ログコード[COMMUNICATION-1017]で出力された[CONTEXT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを検索し、[EVENT_STATUS_CD]が[4](COMPLETED)のものが1件増加していること	OK	9月2日	
A4	20	共通確認項目(WLI-WL) 送信			1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	伝票・明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	9月6日	
A4						2	業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	9月6日	
A4						3	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月6日	
A4						4	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへの成功通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	9月6日	
A4				2	DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月7日	
A4						2	送信プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月7日	
A4						3	BPCメッセージからJ-XML発注が生成されること	J-XML生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1016]が出力されていること	OK	9月7日	
A4						4	通信サーバ経由にて拠点Bへデータ通信を行なうこと	拠点Bへ向けたebXMLでの通信が行なわれていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	
A15				3	サーバエラー	1	送信サーバタイムアウト時は通知されること	BPCのログにて通信サーバへのデータ送信失費意の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1019]が出力されていること	OK	9月7日	
A15						2	送信サーバ回復時は正常に送信されること	BPCのログにてトレース情報登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1018]が出力されていること	OK	9月7日	
A15						3	送信サーバ回復時は送信成功が記録されること	通信サーバのログにて送信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	
A4	21	共通確認項目(WLI-WL) 受信			1	データを受信してDBに入るまで	1	通信サーバよりJ-XMLを受信すること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	
A4						2		BPCのログにて通信サーバからのデータ受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1012]が出力されていること	OK	9月7日	
A4						3		J-XMLのスキーマチェックに成功していること	ログ	ログコード[BPC-6001]が出力されていること	OK	9月7日	
A4						4	J-XMLからBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1019]が出力されていること	OK	9月7日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A4				2	DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月7日	
A4				3	拠点間データ通信	1	業務情報の確認	拠点Aの業務情報ファイルの内容と拠点Bの業務情報ファイルの内容が一致していること	その他	拠点Aの業務情報ファイルと拠点Bの業務情報ファイルを突き合わせる	OK	9月2日	
A5	22	共通確認項目(Biz-WL) 送信		1	データファイルを渡してDBに入るまで	1	伝票・明細形式で記述された業務情報ファイルを業務APから受信できること	データの受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	9月6日	
A5						2	業務情報からBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	9月6日	
A5						3	送信プロセス実行のためのイベントを生成し記録すること	イベント登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	9月6日	
A5						4	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへの成功通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5015]が出力されていること	OK	9月6日	
A5				2	DB内のデータを送信して、送信が終了するまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月7日	
A5						2	送信プロセスが実行されること	BPCのログにてプロセス実行成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月7日	
A5						3	BPCメッセージからJ-XML発注が生成されること	J-XML生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1016]が出力されていること	OK	9月7日	
A5						4	通信サーバ経由にて拠点Bへデータ通信を行なうこと	拠点Bへ向けたebXMLでの通信が行なわれていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	
A15				3	サーバエラー	1	送信サーバタイムアウト時は通知されること	BPCのログにて通信サーバへのデータ送信失敗意の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1019]が出力されていること	OK	9月7日	
A15						2	送信サーバ回復時は正常に送信されること	BPCのログにてトレース情報登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1018]が出力されていること	OK	9月7日	
A15						3	送信サーバ回復時は送信成功が記録されること	通信サーバのログにて送信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	
A5	23	共通確認項目(Biz-WL) 受信		1	データを受信してDBに入るまで	1	通信サーバよりJ-XMLを受信すること	通信サーバのログにてデータ受信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月7日	
A5						2		BPCのログにて通信サーバからのデータ受信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1012]が出力されていること	OK	9月7日	
A5						3		J-XMLのスキーマチェックに成功していること	ログ	ログコード[BPC-6001]が出力されていること	OK	9月7日	
A5						4	J-XMLからBPCメッセージを生成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1019]が出力されていること	OK	9月7日	
A5				2	DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで	1	プロセス整合性チェックを行なうこと	プロセスの実行整合性チェックがOKであること	ログ	ログコード[BPC-6002]が出力されていること	OK	9月7日	
A5				3	拠点間データ通信	2	業務情報の確認	拠点Aの業務情報ファイルの内容と拠点Bの業務情報ファイルの内容が一致していること	その他	拠点Aの業務情報ファイルと拠点Bの業務情報ファイルを突き合わせる	OK	9月2日	
A11	24	イベント設定(時刻と曜日の同時設定)		1	当日のイベントの実行	1		13:00にスケジュールイベントを実行した履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月8日	
A11						2		イベントのステータスが「正常終了」になっていること	DB	ログコード[EVENT-2020]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[EVENT_STATUS_CODE]が[4](COMPLETED)であること	OK	9月8日	
A11				2	当日でないイベントを実行しないこと	3		13:05にスケジュールイベントを実行した履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月8日	
A11						4		イベントのステータスが「正常終了」になっていること	DB	ログコード[EVENT-2020]で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT]テーブルを主キー検索する その行の[EVENT_STATUS_CODE]が[4](COMPLETED)であること	OK	9月8日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A11						5		スケジュールイベントが登録されたとき、スケジュールされたことが履歴に残されていること	ログ	ログコード[EVENT2017] が出力されていること	OK	9月21日	
A11	25	多数のイベント設定		1	99件のイベントの同時実行を指示	1		スケジュールイベントを実行した99件の履歴が残されていること(前提条件で指定された数であること)	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017] が99件出力されていること	OK	9月8日	
A11						2		99件分のイベントのステータスが「正常終了」になっていること(前提条件で指定された数であること)	DB	ログコード[EVENT-2020] で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT] テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_STATUS_CODE]が[4] (COMPLETED)であること	OK	9月8日	
A11						3		スケジュールイベントを実行した99件の履歴が残されていること(前提条件で指定された数であること)	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017] が99件出力されていること	OK	9月8日	
A11						4		イベントのステータスが「正常終了」になっていること(前提条件で指定された数であること)	DB	ログコード[EVENT-2020] で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT] テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_STATUS_CODE]が[4] (COMPLETED)であること	OK	9月8日	
A11						5		スケジュールイベントを実行した履歴が残されていること	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017] が出力されていること	OK	9月21日	
A11						6		実行タイムアウトを検知した履歴が残されていること	ログ	ログコード[EVENT-2022] が出力されていること	OK	9月21日	
A11						7		イベントが実行完了した時点でイベントが「完了」として扱われていること	DB	ログコード[EVENT-2020] で出力された[EVENT_ID]を利用し[EVENT] テーブルを主キー検索するその行の[EVENT_STATUS_CODE]が[4] (COMPLETED)であること	OK	9月21日	
A12	26	スケジュール時刻の記述ミス		1	定義記述ミスのあるコラボレーションの読み込み	1		BPCの初期化が行なわれる事	ログ	ログコード[BPC-6004] が出力されていること	OK	9月7日	
A12				2	定義記述ミスのあるイベントの実施	1		記述ミスのあるイベント定義について、スケジュールイベントを登録する事ができないこと	ログ	ログコード[DISPATCH-4014] が出力されていること	OK	9月7日	
A12				3	リロードの実施	1		記述ミスを修正し、BPCの初期化が行なわれる事	ログ	ログコード[BPC-6004] が出力されていること	OK	9月7日	
A12				4	定義記述ミスのないイベントの登録	1		先に登録できなかったイベントが登録できるようになること	ログ	ログコード[DISPATCH-4014] が出力されていないこと	OK	9月7日	
C1	27	高負荷パターン1	(大量データ/シナリオミックス)	1	スループットの確認	1	大量データをシステムが一定時間内に処理できることを確認する。	通常負荷シナリオが要件で指定される時間以内に終了していること	ログ	1つ目のプロセスに関する処理開始ログ(ログコード[AP-5009])と最後のプロセスに関する処理終了ログ(ログコード[AP-5017])の出力時刻から判断する	OK	10月27日	
C2						2		処理中に想定外のエラー履歴が発生しないこと。	ログ	BPCのログにて[ERROR] [FATAL] レベルのログが出力されていないこと	OK	10月27日	
C1				2	応答時間の確認	1	30分間で行なわれた処理の1件あたりの応答時間が規定以内であること	1分に1回プロセス処理実行のサンプルを取得し、30個のサンプルの平均応答時間が規定以内であること	ログ	サンプルとして取得したプロセスの処理開始ログ(ログコード[AP-5009])と処理終了ログ(ログコード[AP-5017])の出力時刻から判断する	OK	10月27日	
C2				3	効率性	1	CPU使用率がテスト期間中に異常に高くなりつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Processor]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・Processor Time :85%(以上) ・Interrupts/sec :4(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	10月27日	
C2						2	空きメモリ量がテスト期間中に異常に減りつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Memory]と[Paging File]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・Available Bytes :4M/バイト(未満) ・Page/sec :20(以上) ・Usage :70%(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	10月27日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
C2						3	ディスクアクセス数がテスト期間中に異常に増加しつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Avg Disk Queue Length]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・スピンドル数 + 2(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	10月27日	
C2						4	JavaVMのFullGC後のメモリ使用量がテスト期間中に異常に増加しつづけないこと。		その他		OK	10月27日	
C2						5	JavaVMのFullGC処理に必要な時間がテスト期間中に大きく変動しないこと		その他		OK	10月27日	
C2						6	30分のディスクの使用量が？GB以内であること	テスト終了後にディスクの使用量を確認し、テスト開始前のディスク使用量と比較する	その他	(記録から差分を取る) 16時間で4G減少、1時間に4回、 4G/64回 1回1000伝票の発注～支払で64Mのディスク利用	OK	10月27日	
C1	28	高負荷パターン2		1	スループットの確認 (高負荷/シナリオミックス)	1	巨大なデータ量をシステムが一定時間、定量的に処理できることを確認する。	通常負荷シナリオが要件で指定される時間以内に終了していること	ログ	1つ目のプロセスに関する処理開始ログ(ログコード[AP-5009])と最後のプロセスに関する処理終了ログ(ログコード[AP-5017])の出力時刻から判断する	OK	10月27日	
C2						2		処理中に想定外のエラー履歴が発生しないこと。	ログ	BPCのログにて[ERROR][FATAL]レベルのログが出力されていないこと	OK	10月27日	
C1				2	応答時間の確認	1	30分間で行なわれた処理の1件あたりの応答時間が規定以内であること	巨大データを処理するプロセス処理実行のログを取得し、平均応答時間が規定以内であること	ログ	プロセスの処理開始ログ(ログコード[AP-5009])と処理終了ログ(ログコード[AP-5017])の出力時刻から判断する	OK	10月27日	
C2				3	効率性	1	CPU使用率がテスト期間中に異常に高くなりつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Processor]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・Processor Time :85%(以上) ・Interrupts/sec :4(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	10月27日	
C2						2	空きメモリ量がテスト期間中に異常に減りつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Memory]と[Paging File]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・Available Bytes :4M/バイト(未満) ・Page/sec :20(以上) ・Usage :70%(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	10月27日	
C2						3	ディスクアクセス数がテスト期間中に異常に増加しつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Avg Disk Queue Length]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・スピンドル数 + 2(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	10月27日	
C2						4	JavaVMのFullGC後のメモリ使用量がテスト期間中に異常に増加しつづけないこと。		その他		OK	10月27日	
C2						5	1日のディスクの使用量が？GB以内であること	テスト終了後にディスクの使用量を確認し、テスト開始前のディスク使用量と比較する	その他	(記録から差分を取る)	OK	10月27日	
A15	29	シナリオを2日連続で実施し、システムに異常がないことを確認する		1	信頼性	1	シナリオを2日連続で実施し、システムが問題なく稼動していること。	ログの出力内容に異常がないこと。	ログ	BPCのログにて[ERROR][FATAL]レベルのログが出力されていないこと	OK	9月23日	
A15						2		目標とするシナリオ数を実施していること。	ログ	プロセスに処理開始ログ(ログコード[AP-5009])とプロセス処理終了ログ(ログコード[AP-5017])の個数をカウントする	OK	9月23日	
A15				2	サーバエラー	1	送信サーバタイムアウト時は通知されること	BPCのログにて通信サーバへのデータ送信失敗の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1019]が出力されていること	OK	9月23日	
A15						2	送信サーバ回復時は正常に送信されること	BPCのログにてトレース情報登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1018]が出力されていること	OK	9月23日	
A15						3	送信サーバ回復時は送信成功が記録されること	通信サーバのログにて送信成功の履歴が残されていること	CSログ	通信サーバの通信ログを確認	OK	9月23日	
A15				3	機能性	4	実行待ち状態になったイベントの検索と実行が行なわれること。	同期イベントの検索と実行が行なわれていること。	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	9月23日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A15				4	使用性	1	通常負荷状態にて、受発注送信 処理がテスト期間中に大きく劣化 しないこと。	ログの出力内容に異常がないこと。	ログ	BPCのログにて[ERROR] [FATAL]レベルのログが出力されてい ないこと	OK	9月23日	
A15						2	目標としているレスポンスタイムを 満たしていること。	目標とするシナリオ数を実施している こと。	ログ	プロセスに処理開始ログ(ログコード[AP-5009])とプロセス処理 終了ログ(ログコード[AP-5017])の個数をカウントする	OK	9月23日	
A15				5	効率性	1	CPU使用率がテスト期間中に異常 に高くなりつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにお いて[Processor]のカウンタログを取 得し、以下の項目について閾値を越 えないこと ・Processor Time :85%(以上) ・Interrupts/sec :4(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	9月23日	
A15						2	空きメモリ量がテスト期間中に異 常に減りつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにお いて[Memory]と[Paging File]のカウ ンタログを取得し、以下の項目につ いて閾値を越えないこと ・Available Bytes :4M/バイト(未満) ・Page/sec :20(以上) ・Usage :70%(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	9月23日	
A15						3	ディスクアクセス数がテスト期間中 に異常に増加しつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにお いて[Avg Disk Queue Length]のカウ ンタログを取得し、以下の項目につ いて閾値を越えないこと ・スピンドル数+2(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	9月23日	
A15						4	JavaVMのFullGC後のメモリ使用量 がテスト期間中に異常に増加しつ づけないこと。		その他	-verbosegcオプションをつけてWebLogicを起動し、Full GC後の出 力結果を確認する。	OK	9月23日	
A15						5	JavaVMのFullGC処理に必要な時 間がテスト期間中に大きく変動 しないこと		その他		OK	9月23日	
A15						6	1日のディスクの使用量が2GB以 内であること	テスト終了後にディスクの使用量を確 認し、テスト開始前のディスク使用量 と比較する	その他	(記録から差分を取る)	OK	9月23日	30000明細の発注+仕入通知を25回 行って、空きディスク容量が 600MBytes減少
B7	30	発注～出荷確定～仕 入～請求～支払明細 (トレース情報の確認: 変更なし)	発注データ:6明細 x100 をBPCに投入 - orderツールで100 伝票作成 - asnツールはノー マル	1	発注側 tx. 1～2	1	ログの出力	INFOレベルのログが正常に出力され ていることを確認する。	BPCロ グ	6008 業務データ受付 2017 イベントがスケジュールされた(送信プロセス用) 2017 イベントがスケジュールされた(受信プロセス用) 3016 プロセス開始 1013 J-XML送信 3017 プロセス終了	OK	9月13日	
B7			スケジューラは起動 させておく	2	受注側 tx. 3～4	1	発注に対する業務情報ファイルが できており、内容が発注照合用 データ(このテスト用)と一致するこ と	発注データのコピーと付き合わせる。	ファイル	diff相当でファイルをテキストとして比較し、違いがないことを確認 する。	OK	9月9日	
B7						2	発注データに対する「トレース元情 報」が生成されていること		DB	トレース情報確認コマンドの仕様を確認する必要あり	OK	9月14日	
B7			出荷確定データ:6 明細x100 をBPCに投入	3	受注側 tx. 1	1	出荷確定の業務情報ファイルと「ト レース元情報」から、トレース情報 が生成されていること		DB	トレース情報確認コマンドの仕様を確認する必要あり	OK	9月14日	
B7			スケジューラは停止 させておく	4	発注側 tx. 3	1	受注側で、出荷確定データを元に 「トレース情報」が生成されている こと		DB	トレース情報確認コマンドの仕様を確認する必要あり(埋金さ ん)	OK	9月14日	
B7			スケジューラを起動	5	発注側 tx. 4	1	出荷確定に対する業務情報ファイル ができており、内容が出荷確定 照合用データ(このテスト用)と一致 すること	出荷確定データのコピーと付き合わ せる。	ファイル	diff相当でファイルをテキストとして比較し、違いがないことを確認 する。	OK	9月10日	BTS#107 OK
B7						2	出荷確定データに含まれていた 「トレース情報」が保存されている こと		DB	トレース情報確認コマンドの仕様を確認する必要あり(埋金さ ん)	OK	9月14日	
B7			仕入データ:6明細 x100をBPCに投入	6	発注側 tx. 1～2	1	ログの出力	INFOレベルのログが正常に出力され ていることを確認する。	BPCロ グ		OK	9月14日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
B7				7	受注側 tx. 3 ~ 4	1	発注に対する業務情報ファイルができており、内容が発注照合用データ(このテスト用)と一致すること	発注データのコピーと付き合わせる。	ファイル		OK	9月14日	
B7			請求データ：100伝票をBPCに投入	8	受注側 tx. 1	1	ログの出力	INFOレベルのログが正常に出力されていることを確認する。	BPCログ		OK	9月14日	
B7				9	発注側 tx. 3 ~ 4	1	発注に対する業務情報ファイルができており、内容が発注照合用データ(このテスト用)と一致すること	発注データのコピーと付き合わせる。	ファイル		OK	9月14日	
B7			支払い明細データ：100伝票をBPCに投入	10	発注側 tx. 1 ~ 2	1	ログの出力	INFOレベルのログが正常に出力されていることを確認する。	BPCログ		OK	9月14日	
B7				11	受注側 tx. 3 ~ 4	1	発注に対する業務情報ファイルができており、内容が発注照合用データ(このテスト用)と一致すること	発注データのコピーと付き合わせる。	ファイル		OK	9月14日	
B2	31	発注 ~ 出荷確定 (トレース情報の確認： 発注1:出荷確定2)	- orderツールで100伝票作成 - asnツールは分納モード	1	受注側 tx. 3 ~ 4	1	発注に対する業務情報ファイルができており、内容が発注照合用データ(このテスト用)と一致すること		ファイル		OK	9月14日	
B2						2	発注データに対する「トレース元情報」が生成されていること		DB	%a366でtrace_infoを検索し、1件あることを確認	OK	9月14日	
B2			出荷確定： 6明細x90 + 5明細x10、 1明細x10をBPCに投入	2	受注側 tx. 1	1	出荷確定の業務情報ファイルと「トレース元情報」から、トレース情報が生成されていること	分納分について、元コンテキストからは「削除」、 新コンテキストからは「生成」されていること	DB	最初のASNのコンテキストについて、伝票番号が最初の10伝票の明細1 ~ 5は「変更なし」、または「欠品」、6は「削除」となること。 分納分のコンテキストについては、明細1 ~ 5は表示されず、明細6が「変更なし」または「欠品」になること	OK	9月14日	
B2						2	出荷確定データに含まれていた「トレース情報」が保存されていること	分納分について、元コンテキストからは「削除」、 新コンテキストからは「生成」されていること	DB		OK	9月27日	
B2			結合・分割対応 以下の発注A、Bを 一回ずつ送信する。 (カッコ内は、含まれる伝票番号)。どの伝票も6明細とする。 発注A：6明細x3(500 ~ 502) 発注B：6明細x3(503 ~ 505)	3	発注側 (3号機)	1	発注送信後の、両者のコンテスト情報を確認する。 (備考)データファイル名 発注A：order-a.dat 発注B：order-b.dat コラボレーションはaeon_34_IIになっています	発注Aのcontext-idを記録しておく。 発注Bのcontext-idを記録しておく。 発注送信直後の発注側のcontext_infoの状態は、以下であることを確認する 500 ~ 502：発注Aのcontext-id 503 ~ 505：発注Bのcontext-id 発注受信直後の受信側のcontext_infoの状態は、以下であることを確認する 500 ~ 502：発注Aのcontext-id 503 ~ 505：発注Bのcontext-id	BPCログDB	select SLIP_NO, CONTEXT_ID from CONTEXT_INFO where SLIP_NO IN (500,501,502,503,504,505) ログに出たコンテキストIDは下4ケタをここに記録してください。 Order-a-Tx1: ee74 Order-a-Tx4: ee74 Order-b-Tx1: :3d71 Order-b-Tx4: :3d71 確認結果(SQL結果)をここに貼って置いてください	OK	9月17日	
B2			受信側は、以下のASN-A、B、Cをそれぞれ一回ずつ送信する。 ASN-A：6明細x2(500、503、506) ASN-B：6明細x2(501、504、507) ASB-C：6明細x2(502、505、508)	4	受注側 (4号機)	1	ASNのコンテキストIDを確認する。 (備考)データファイル名 ASN-A：asn-a.dat ASN-B：asn-b.dat ASN-C：asn-c.dat コラボレーションはaeon_34_IIになっています 半分(くらい)の明細が欠品数5になっています。	ASN-Aのcontext-idが発注Aのcontext-idと同じであること。 ASN-Bのcontext-idが発注Bのcontext-idと同じであること ASN-Cのcontext-idは新しく払い出されたものであること	DB	ログに出たコンテキストIDは下4ケタをここに記録してください。 asn-a-Tx1: ee74 asn-a-Tx4: ee74 asn-b-Tx1: 3d71 asn-b-Tx4: 3d71 asn-c-Tx1: 527d asn-c-Tx4: 527d	OK	9月17日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
B2			DBを確認する	5	発注側 受注側	1	ASN送信後の両者のコンテキスト 情報を確認する。	テスト後の発注側のcontext_infoの状態は、以下であること 500、503、506：発注Aのcontext-id 501、504、507：発注Bのcontext-id 502、505、508：ASN-Cのcontext-id 発注受信直後の受信側の context_infoの状態は、以下であるこ とを確認する 500、503、506：発注Aのcontext-id 501、504、507：発注Bのcontext-id 502、505、508：ASN-Cのcontext-id	DB	確認結果(SQL結果)をここに貼って置いてください ASN受信後 発注側 500: ee74 / 503: ee74 / 506: ee74 501: 3d71 / 504: 3d71 / 507: 3d71 502: 527d / 505: 527d / 508: 527d ASN受信後 受注側 500: ee74 / 503: f3d71 / 506: (N.a) 501: ee74 / 504: 3d71 / 507: (N.a) 502: ee74 / 505: 3d71 / 508: (N.a)	OK	9月17日	
B3	32	実験パターン1 発注～受領 正常ルート	項番#1の後に、入 荷検品を追加したも の。	1	正常シナリオ	1	発注者が発注を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常 に行われた事を確認する。	BPCロ グ	#1-1と同等	OK	9月14日	
B3						2	発注者が発注を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予 め準備したファイルと一致すること を確認する。	ファイル		OK	9月28日	
B3						3	受注者が出荷確定を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常 に行われた事を確認する。	BPCロ グ	#1-1と同等	OK	9月14日	
B3						4	発注者が出荷確定を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予 め準備したファイルと一致すること を確認する。	ファイル		OK	9月17日	
B3						5	発注者が仕入を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常 に行われた事を確認する。	BPCロ グ	#1-1と同等	OK	9月14日	
B3						6	受注者が仕入を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予 め準備したファイルと一致すること を確認する。	ファイル		OK	9月17日	
B3						7	トレース情報が参照できること(変 更なし)	変更のなかった伝票番号のトレース 情報を確認する	コマンド		OK	9月28日	
B3						8	不要なトレース情報が作成されて いないこと	トレース情報の件数が明細数のみ増 加していることを確認する	DB		OK	9月28日	
B4	33	実験パターン1 発注～受領 入荷時欠品あり	ダミーの業務APに て0.1%の割合で欠品 を発生させる スト レステストで利用	1	正常シナリオ	1	発注者が発注を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常 に行われた事を確認する。	BPCロ グ	#1-1と同等	OK	9月14日	
B4						2	発注者が発注を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予 め準備したファイルと一致すること を確認する。	ファイル		OK	9月28日	
B4						3	受注者が出荷確定を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常 に行われた事を確認する。	BPCロ グ	#1-1と同等	OK	9月14日	
B4						4	発注者が出荷確定を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予 め準備したファイルと一致すること を確認する。	ファイル		OK	9月17日	
B4						5	発注者が仕入を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常 に行われた事を確認する。	BPCロ グ	#1-1と同等	OK	9月14日	
B4						6	受注者が仕入を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予 め準備したファイルと一致すること を確認する。	ファイル		OK	9月17日	
B4						7	トレース情報が参照できること(出 荷欠品)	出荷のみ変更のあった伝票番号のト レース情報を確認する	コマンド		OK	10月8日	
B4						8	トレース情報が参照できること(入 荷欠品)	入荷のみ変更のあった伝票番号のト レース情報を確認する	コマンド		OK	10月8日	
B4						9	トレース情報が参照できること(出 荷・入荷欠品)	出荷および入荷にて変更のあったト レース情報を確認する	コマンド		OK	10月8日	
B4						10	トレース情報が参照できること(行 の削除・出荷)	出荷のみ変更のあった伝票番号のト レース情報を確認する	コマンド		OK	10月8日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
B4						11	トレース情報が参照できること(行の削除・入荷)	入荷のみ変更のあった伝票番号のトレース情報を確認する	コマンド		OK	10月8日	
B4						12	トレース情報が参照できること(行の削除・出荷と入荷)	出荷および入荷にて変更のあったトレース情報を確認する	コマンド		OK	10月8日	
B4						13	トレース情報が参照できること(行の削除)	出荷および入荷にて変更のあったトレース情報を確認する	コマンド		OK	10月8日	
B5	34	実験パターン1 請求 - 支払明細	安定性テストのいずれか	1	正常シナリオ	1	受注者が請求を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常に行われた事を確認する。	BPCログ	#1-1,1-4と同等	OK	9月16日	
B5						2	発注者が請求を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予め準備したファイルと一致することを確認する。	ファイル		OK	9月17日	
B5						3	発注者が支払案内を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常に行われた事を確認する。	BPCログ	#1-1,1-4と同等	OK	9月16日	
B5						4	受注者が支払案内を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予め準備したファイルと一致することを確認する。	ファイル		OK	9月17日	
B5						5	請求がなくても支払案内を送信できること	請求なしの状態で支払案内を送信できることを確認する。	BPCログ		OK	9月17日	
B6	35	実験パターン 商品マスタ交換	テキスト文字列データを交換する(発注の固定長データ5000明細分で代用)	1	正常シナリオ	1	受注者が商品マスタデータ(テストデータ)を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常に行われた事を確認する。	BPCログ	#1-1,1-4と同等	OK	9月17日	
B6						2	発注者が商品マスタデータ(テストデータ)を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予め準備したファイルと一致することを確認する。	ファイル		OK	9月28日	
B6						3	発注者が商品マスタデータ(テストデータ)を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常に行われた事を確認する。	BPCログ	#1-1,1-4と同等	OK	9月17日	
B6						4	受注者が商品マスタデータ(テストデータ)を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予め準備したファイルと一致することを確認する。	ファイル		OK	9月28日	全角文字が化けてしまう(BTS#128)動作確認済み
B6			半角カナ	2	文字種のバリエーション	1	半角カナを含むデータを正常に交換できること	作成されたファイルが、照合用に予め準備したファイルと一致することを確認する。			OK	9月28日	
B6			Unicode-SJISで化ける文字			2	Unicode-SJISで化ける文字を含むデータを正常に交換できること	作成されたファイルが、照合用に予め準備したファイルと一致することを確認する。			OK	9月28日	
B6			大データ(30000明細の固定長発注データで代用)	3	大データ	1	受注者が商品マスタデータ(テストデータ)を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常に行われた事を確認する。			OK	9月28日	
B6						2	発注者が商品マスタデータ(テストデータ)を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予め準備したファイルと一致することを確認する。			OK	9月28日	
B6						3	発注者が商品マスタデータ(テストデータ)を送信すること	INFOレベルのログから、送信が正常に行われた事を確認する。			OK	9月28日	
B6						4	受注者が商品マスタデータ(テストデータ)を受信すること	作成されたファイルが、照合用に予め準備したファイルと一致することを確認する。			OK	9月28日	
B6			0バイトのデータ	4	異常データ	1	データを送受信できること	データを送受信できること			OK	9月28日	
A6	36	発注伝票を拠点A(発注者ロール)から拠点Bへ送信する	明細数が6の発注伝票	1	送信時 (SFI受信アダプタ)	1	〔簡易チェック(テストシナリオ項目#45)〕の〔送信時(SFI受信アダプタ)〕の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月19日	
A6				2	送信時 (SFI受信アプリ)	2	〔簡易チェック(テストシナリオ項目#45)〕の〔送信時(SFI受信アダプタ)〕の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月19日	
A6				3	送信内容の確認 (送信時)	3	業務APアダプタでBMが受信した業務情報ファイルとSFI通信サーバの送信ディレクトリに保存されたJ-XMLの内容と一致していること	(ファイルの内容の突合)	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月22日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A6				4	受信時 (SFI受信アプリ)	4	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[送信時(SFI受信アプリ)]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月19日	
A6				5	受信時 (SFI受信アダプタ)	5	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[送信時(SFI受信アダプタ)]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月19日	
A6				6	受信内容の確認 (受信時)	6	SFI通信クライアントが受信ディレクトリへ保存したファイルとBMが受信し業務APアダプタへ通知したファイルの内容が一致していること	(ファイルの内容の突合)	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月22日	
A6	37	業務情報のデータが大きい(伝票数)	伝票数が5000、明細数が6件の発注データ	1	送信内容の確認 (送信時)	1	業務APアダプタでBMが受信した業務情報ファイルとSFI通信サーバの送信ディレクトリに保存されたJ-XMLの内容と一致していること	伝票行数が一致していること	その他	行数の確認	OK	10月22日	BTS#160
A6				2	受信内容の確認 (受信時)	2	SFI通信クライアントが受信ディレクトリへ保存したファイルとBMが受信し業務APアダプタへ通知したファイルの内容が一致していること	伝票行数が一致していること	その他	行数の確認	OK	10月22日	BTS#160
A6	38	SFI送信アプリへの送信指示が複数件存在する	SFI送信アプリを停止させておく	1	送信メッセージを5件登録する	1	BPCメッセージからJ-XML発注が生成されること(5件分確認する)	BPCのログにて通信サーバへのデータ送信成功の履歴が残されていること(5件分確認する)	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1018]が出力されていること(5件分確認する)	OK	10月19日	
A6			SFI送信アプリを起動する	2	送信時 (SFI送信アダプタ)	2	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[送信時(SFI送信アダプタ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月19日	
A6				3	送信時 (SFI送信アプリ)	3	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[送信時(SFI送信アプリ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月19日	
A6				4	ログ確認	4	上記のログがシーケンシャルに5件出力されていること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)(5件分確認する)	OK	10月19日	
A6				5	送信内容の確認 (送信時)	5	業務APアダプタでBMが受信した業務情報ファイルとSFI通信サーバの送信ディレクトリに保存されたJ-XMLの内容と一致していること	伝票番号が一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月19日	
A6				6	ファイル確認	6	受信ディレクトリに生成されたファイルが5件存在していること、それぞれがユニークにファイルが作成されていること	伝票番号が一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月19日	
A6	39	SFI受信アプリが連続で読み込み処理を行なう	SFI受信アプリを停止させておく	1	受信メッセージを5件登録する	1	受信ディレクトリに受信するメッセージファイルを5件作成する	ディレクトリのファイル件数を確認	その他	ディレクトリのファイル件数を確認	OK	10月19日	
A6			SFI受信アプリを起動する	2	受信時 (SFI受信アプリ)	2	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[受信時(SFI受信アプリ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月19日	
A6				3	受信時 (SFI受信アダプタ)	3	[簡易チェック(テストシナリオ項目#45)]の[受信時(SFI受信アダプタ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月19日	
A6				4	受信時 (SFI受信アダプタ)	4	上記のログがシーケンシャルに5件出力されていること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)(5件分確認する)	OK	10月19日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A6				5	受信内容の確認 (受信時)	5	SFI通信クライアントが受信ディレ クトリへ保存したファイルとBMが 受信し業務APアダプタへ通知した ファイルの内容が一致しているこ と	伝票番号が一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月19日	
A6				6	受信内容の確認 (受信時)	6	業務APアダプタの通知ディレクトリ に生成されたファイルが5件存在し ていること、それぞれがユニークに ファイルが作成されていること	伝票番号が一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月19日	
A6	40	SFI送信アダプタにて処 理実行中に受信アプリ から受信処理が通知さ れる	BMのスケジューラ による送信処理開 始時刻とSF受信ア プリによるファイル 存在チェック時刻が 重なるよう調整して 実行する	1	送信時 (SFI送信アダプ タ)	1	[簡易チェック(テストシナリオ項目 #45)]の[送信時 (SFI送信アダプタ)]の最初のログ と最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A6				2	送信時 (SFI送信アプリ)	2	[簡易チェック(テストシナリオ項目 #45)]の[送信時 (SFI送信アプリ)]の最初のログと 最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A6				3	送信内容の確認 (送信時)	3	業務APアダプタでBMが受信した 業務情報ファイルとSFI通信サー バの送信ディレクトリに保存された J-XMLの内容と一致していること	伝票番号が一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月22日	
A6				4	受信時 (SFI受信アプリ)	4	[簡易チェック(テストシナリオ項目 #45)]の[受信時 (SFI受信アプリ)]の最初のログと 最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A6				5	受信時 (SFI受信アダプ タ)	5	[簡易チェック(テストシナリオ項目 #45)]の[受信時 (SFI受信アダプタ)]の最初のログ と最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A6				6	受信内容の確認 (受信時)	6	SFI通信クライアントが受信ディレ クトリへ保存したファイルとBMが 受信し業務APアダプタへ通知した ファイルの内容が一致しているこ と	伝票番号が一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月22日	
A1	41	複数の送信先へ送る業 務情報ファイルを受信 した場合	コラボレーションが3 つずつ含まれている 2つはクライアント型 受注者ABに対する 送信であり、もうい ひとつはサーバ方 受注者Cへの送信 である場合	1	データファイルを 渡してDBに入る まで	1	複数の送信先が指定された業務 情報ファイルを業務APから受信で きること	データの受信成功の履歴が残されて いること	ログ	ログコード[AP-5009]が出力されていること	OK	10月21日	
A1						2	業務情報からBPCメッセージを生 成すること	BPCメッセージ生成成功の履歴が残 されていること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	10月21日	
A7						3		上記の場合、送信先別、コラボレ ーション別に生成していること	ログ	ログコード[AP-5010]が出力されていること	OK	10月21日	
A1						4		業務APアダプタが受信したコラボ レーションIDを使ってBPCメッセー ジを生成していること	ログ	ログコード[AP-5011]が出力されていること	OK	10月21日	
A1						5		業務APアダプタがコンテキストIDを新 規生成していること	ログ	ログコード[AP-5012]が出力されていること	OK	10月21日	
A7						6		上記の場合、送信先別に生成してい ること	ログ	ログコード[AP-5012]が出力されていること	OK	10月21日	
A1						7	トレース情報を生成すること	発注のトレース情報が新規に生成さ れていること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	10月21日	
A7						8		上記の場合、送信先別、コラボレ ーション別に生成していること	ログ	ログコード[AP-5014]が出力されていること	OK	10月21日	
A7						9		上記の場合、送信先別、コラボレ ーション別に生成していること	ログ	ログコード[EVENT-2018]が出力されていること	OK	10月21日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A1						10	業務APアダプタからBPCへデータを引き渡し、業務APへ処理結果を返すこと	業務APへ成功の処理結果が返されること	その他	業務APIに返されるHTTP Responseを確認する	OK	10月21日	
A1						11		業務APへの成功通知完了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5022]が出力されていること	OK	10月21日	
A7				2	DB内のデータを 送信して、送信 が終了するまで	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[DB内のデータを送信して、送信が終了するまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A7						2		上記の場合、送信先別、コラボレーション別に行なわれていること	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A7				3	受信側(サーバ型: データを受信してDBに入るまで)	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[データを受信してDBに入るまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A7				4	受信時(サーバ型: DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで)	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[DBのデータを元に業務アプリ用のデータができるまで]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A7				5	送信時 (SFI送信アダプタ)	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[送信時(SFI送信アプリ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A7						2	上記の場合、クライアントAB双方のためのログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A7				6	受信時 (SFI受信アプリ)	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[受信時(SFI受信アダプタ)]の確認内容が全て確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A7						2	上記の場合、クライアントAB双方でログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A7				7	拠点間データ通信	1	クライアントABおよびサーバCへ向けて送信された内容が正しく、かつそれぞれユニークとなっていること	伝票番号が一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月21日	
A6	42	連続で送受信を行なう	10秒間隔で伝票1、明細6のデータを連続で100回送受信する	1	送信時 (SFI送信アダプタ)	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[送信時(SFI送信アダプタ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	11月4日	最初 [BM-1016]: OK 最後 [TS-1018]: OK
A6			テストの実施においてログの内容については確認を行わない(100回出力していることだけを確認する)	2	送信時 (SFI送信アプリ)	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[送信時(SFI送信アプリ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	11月4日	最初 [BZ-7014]: OK 最後[BZ-7019]: OK
A6				3	送信内容の確認 (送信時)	1	業務APアダプタでBMが受信した業務情報ファイルが送信件数分生成されていること	ディレクトリのファイル件数を確認	その他	ディレクトリのファイル件数を確認	OK	11月4日	
A6				4	受信時 (SFI受信アプリ)	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[受信時(SFI受信アプリ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	11月4日	最初 [BZ-7002]: OK 最後[BZ-7003]: OK
A6				5	受信時 (SFI受信アダプタ)	1	{簡易チェック(テストシナリオ項目#45)}の[受信時(SFI受信アダプタ)]の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	11月4日	最初 [BM-1032]: OK 最後[AP-5023]: OK

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A6				6	受信内容の確認 (受信時)	1	BMが受信し業務APアダプタへ通知したファイルが受信件数分生成されていること	ディレクトリのファイル件数を確認	その他	ディレクトリのファイル件数を確認	OK	11月4日	
A14	43	BPCを停止させ、再起動した場合		1	BM停止	1	BPCを停止させる	BPCが正常終了した履歴が残されていること	その他	プロセスモニターを参照しBPCプロセスが存在していない事を確認する	OK	10月22日	
A14				2	BM再起動中の受信時 (SFI受信アプリ)	1	SFI受信アダプタの呼び出しに失敗すること	SFI受信アダプタの呼び出し失敗履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7010] が出力されていること	OK	10月22日	
A14				3	ファイルの確認	1	処理対象のファイルが受信ディレクトリに存在していること、および受信履歴ディレクトリに移されていないこと	ディレクトリのファイル件数を確認	その他	ディレクトリのファイル件数を確認	OK	10月22日	
A14				4	BM再起動	1	BPCを起動する	BPCが正常起動した履歴が残されていること	ログ	ログコード[BPC-6005] が出力されていること	OK	10月22日	
A14				5	再起動後の受信時 (SFI受信アプリ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【受信時(SFI受信アプリ)】の最初のログと最後のログが確認できること 先に失敗したファイルの読み込みで成功すること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A14				6	ログの確認	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【受信時(SFI受信アダプタ)】の最初のログと最後のログが確認できること 先に失敗したファイルの読み込みで成功すること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A14				7	ファイル内容の一致確認	1	SFI通信クライアントが受信ディレクトリへ保存したファイルとBMが受信し業務APアダプタへ通知したファイルの内容が一致していること	伝票番号が一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月22日	
A12	44	同名の別内容であるファイルを受信する	同名のファイルA1,A2を順々に処理する A1,A2の順番で処理される場合、A2のファイルは送信処理が行なわれずログ出力された後SFI受信アプリがA2のファイルを削除する仕様	1	ファイルA1の受信時 (SFI受信アプリ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【受信時(SFI受信アプリ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A12				2	ファイルA1の受信時 (SFI受信アダプタ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【受信時(SFI受信アダプタ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A12				3	ファイルA2の受信時 (SFI受信アプリ)	1	受信ファイルの確認を行なうこと (ファイルが見つかった場合)	BizX受信ファイル検出履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7002] が出力されていること	OK	10月22日	
A12						2	ファイル名重複が検出されること	ファイル名重複が検出履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7005] が出力されていること	OK	10月22日	
A12						3	ファイル名が重複しているファイル(A2)が受信ディレクトリから削除されること	ファイル削除履歴が残されていること	ログ	ログコード[BIZX-7022] が出力されていること	OK	10月22日	
A12						4	受信履歴ディレクトリにファイルが上書きされないこと	A1の内容で受信履歴ディレクトリにファイルが残っていること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月22日	
A12				4	DBサーバリポート中の送信時 (SFI送信アプリ)	1	送信対象の検索に失敗すること	送信対象の検索失敗履歴が残されていること	ログ	ログコード[BIZX-7022] が出力されていること ログコード[BIZX-7021] が出力されていること	OK	10月21日	
A12				5	DBサーバリポート中の受信時 (SFI受信アプリ)	1	受信ファイルの確認を行なうこと (ファイルが見つかった場合)	BizX受信ファイル検出履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7002] が出力されていること	OK	10月21日	
A12						2	受信ファイルの登録に失敗すること	受信ファイルの登録失敗履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7021] が出力されていること	OK	10月21日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A12						3	処理対象のファイルが受信ディレクトリに存在していること、および受信履歴ディレクトリに移されていないこと	ディレクトリのファイル件数を確認	その他	ディレクトリのファイル件数を確認	OK	10月21日	
A12				6	DBサーバリブート後の送信時(SFI送信アダプタ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【送信時(SFI送信アダプタ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A12				7	DBサーバリブート後の送信時(SFI送信アプリ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【送信時(SFI送信アプリ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
A12				8	DBサーバリブート後の受信時(SFI受信アプリ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【受信時(SFI受信アプリ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A12				9	DBサーバリブート後の受信時(SFI受信アダプタ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【受信時(SFI受信アダプタ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	その他	(同項目確認項目を参照)	OK	10月22日	
A12	45	【簡易チェック】		10	送信時(SFI送信アダプタ)	1	BPCメッセージからJ-XML発注が生成されること	J-XML生成成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1016]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						2	ebXMLヘッダ情報が作成されること	dbXMLヘッダ情報作成の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1033]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						3	コンテキスト情報が保存されていること(新規登録時)	コンテキスト情報が保存の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1026]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						4	ebXMLヘッダ情報が保存されること(更新時)	コンテキスト情報の重複検出履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1027]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						5		コンテキスト情報の更新履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1028]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						6	ebXMLヘッダ情報が登録されること	dbXMLヘッダ情報登録の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1029]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						7	BPCメッセージからJ-XML発注が生成されること	BPCのログにて通信サーバへのデータ送信成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1018]が出力されていること	OK	10月18日	
A12				11	送信時(SFI送信アプリ)	1	メッセージヘッダの検索を行うこと(処理データがない場合)	BizX送信メッセージ不在の履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7013]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						2	メッセージヘッダの検索を行うこと(処理データが見つかった場合)	BizX送信メッセージ検出履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7014]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						3	J-XMLの作成処理が終了すること	J-XMLの作成処理が終了履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7029]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						4	生成したJ-XMLがファイルにてTMPディレクトリへ出力されること	ファイル出力履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7018]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						5	ebXMLヘッダ情報が削除されること	ebXMLヘッダ情報削除の履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7017]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						6	BizXサーバマシンのTMPディレクトリのJ-XMLが送信ディレクトリへ移動されること	TMPディレクトリのJ-XMLが送信ディレクトリへ移動履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7019]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						7		J-XMLファイルが送信ディレクトリに作られること	その他	ファイルが存在していること	OK	10月18日	
A12						8	BizXクライアントマシンの送信ディレクトリに送信ファイルが作成されていること	J-XMLファイルが送信ディレクトリに作られること	その他	ファイルが存在していること	OK	10月18日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A12				12	受信時 (SFI受信アプリ)	1	BizXサーバマシンの受信ファイルの確認を行なうこと(ファイルがない場合)	BizX受信ファイル不在の履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7001]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						2	BizXサーバマシンの受信ファイルの確認を行なうこと(ファイルが見つかった場合)	BizX受信ファイル検出履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7002]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						3	BizX受信ファイルにファイル名が登録されること	BizX受信ファイル登録履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7004]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						4	ebXMLメッセージヘッダ情報が作成されること	ebXMLメッセージヘッダ情報が作成履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7020]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						5	BPCサーバのBizX受信アダプタを呼び出し処理を委譲すること	BPCサーバのBizX受信アダプタを呼び出し履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7009]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						6	BPCサーバのBizX受信アダプタから処理終了が通知されること	BPCサーバのBizX受信アダプタから処理終了の履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7012]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						7	BizX受信ファイルを受信履歴ディレクトリに移動すること	BizX受信ファイルを受信履歴ディレクトリへの移動履歴が残されること	ログ	ログコード[BIZX-7007]が出力されていること	OK	10月18日	
A12						8		J-XMLファイルが受信履歴ディレクトリに存在していること	その他	ファイルが存在していること	OK	10月18日	
A12						9		J-XMLファイルが受信ディレクトリから無くなっていること	その他	ファイルが存在していないこと	OK	10月18日	
A12						10	BizX受信ファイルの処理が正常終了すること。	BizX受信ファイルの処理が正常終了の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-7003]が出力されていること	OK	10月18日	
A12				13	受信時 (SFI受信アダプタ)	1	コンテキスト情報が検索され(DBに発見した場合)、使用済みコンテキスト情報に登録されること	使用済みコンテキスト情報登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[COMMUNICATION-1032]が出力されていること	OK	10月22日	
A12						2	使用済みコンテキスト情報を登録したログが出力されること	使用済みコンテキスト情報を登録成功の履歴が残されていること	ログ	ログコード[AP-5023]が出力されていること	OK	10月22日	
A8	46	負荷パターン	以下の条件にて負荷テストを実施 【発注者側サーバ】 BMサーバ1台(1号機) 【受注者側サーバ】 BizX送信アプリ/受信アプリ搭載機(6号機) BizXServer/BizXClientの不備によりこれらを経由せずテストを実施 【コラボレーションパターンと通信回数】 1. 発注送信(1号機6号機) 2. ASN返信(6号機1号機) 3. 受領送信(1号機6号機) これを100回連続で実施。発注送信リクエスト間隔は0秒(sleep 間隔なし)	1	スレーブットの確認	1	大量データをシステムが一定時間内に処理できることを確認する。	通常負荷シナリオが要件で指定される時間以内に終了していること	ログ	1つ目のプロセスに関する処理開始ログ(ログコード[AP-5009])と最後のプロセスに関する処理終了ログ(ログコード[AP-5017])の出力時刻から判断する	OK	10月28日	処理時間:約1時間15分 [BM] 2004/10/28 21:56:26送信開始 2004/10/28 23:12:39送信完了 [BizX] 2004/10/28 21:56:44受信開始 2004/10/28 23:10:54受信終了
A8						2		処理中に想定外のエラー履歴が発生しないこと。	ログ	BPCのログにて[ERROR] [FATAL]レベルのログが出力されていないこと	OK	10月28日	検出されていない
A8				2	応答時間の確認	1	30分間で行なわれた処理の1件あたりの応答時間が規定以内であること	BizXを利用した送信、通知の実行時間平均を取得する	ログ	サンプルとして取得したプロセスの処理開始ログ(ログコード[AP-5009])と処理終了ログ(ログコード[AP-5017])の出力時刻から判断する	OK	10月28日	送信時:約16秒 受信時:約13秒
A8				3	効率性	1	CPU使用率がテスト期間中に異常に高くなりつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Processor]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・Processor Time :85%(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	10月28日	最少3% 最大100% 平均85%
A8						2	空きメモリ量がテスト期間中に異常に減りつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Memory]と[Paging File]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・Available Bytes :4M/バイト(未満)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する	OK	10月28日	[Meomry/Available Bytes] 最少2547712
A8						3	JavaVMのFullGC後のメモリ使用量がテスト期間中に異常に増加しつづけないこと。		その他		OK	10月28日	BM本体のFullGC回数:0回 BM スケジューラのFullGC回数:0回 BizXSneiderのFullGC回数:0回 BizXeiverのFullGC回数:0回

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A8			100伝票6明細/1通信			4	JavaVMのFullGC処理に必要な時間がテスト期間中に大きく変動しないこと		その他		OK	10月28日	BM本体のFullGC回数:0回 BM スケジューラのFullGC回数:0回 BizXSneiderのFullGC回数:0回 BizXeiverのFullGC回数:0回
A8						5	テスト中ののディスクの使用量が2GB以内であること		その他	(記録から差分を取る)	OK	10月28日	
A15	47	シナリオを2日間連続で実施し、システムに異常がないことを確認する		1	信頼性	1	シナリオを2日間連続で実施し、システムが問題なく稼動していること。	ログの出力内容に異常がないこと。	ログ	BPCのログにて[ERROR] [FATAL] レベルのログが出力されていないこと	OK	11月2日	[3号機(発注側BM)] 10/30: 0件 10/31: 0件 [7号機(受注側BizX)] 10/30: 0件 10/31: 0件
A15						2		以下の全てのファイル数が一致していること [発注者側] 送信発注ファイル数 受信ASNファイル数 送信受領ファイル数 [受注者側] 受信発注ファイル数 送信ASNファイル数 送信受領ファイル数	ログ	送受信ファイル数をカウント	OK	11月1日	10/29(PM),10/30,10/31,11/1(AM)を通じて全てのファイル数が254で一致していることを確認
A15				2	機能性	1	実行待ち状態になったイベントの検索と実行が行なわれること。	同期イベントの検索と実行が行なわれていること。	ログ	ログコード[CONSTRAINT-3017]が出力されていること	OK	11月1日	
A15				3	使用性	1	通常負荷状態にて、受発注送信処理がテスト期間中に大きく劣化しないこと。 目標としているレスポンスタイムを満たしていること。	ログの出力内容に異常がないこと。	ログ	BPCのログにて[ERROR] [FATAL] レベルのログが出力されていないこと	OK	11月2日	[3号機(発注側BM)] 10/30: 0件 10/31: 0件 [7号機(受注側BizX)] 10/30: 0件 10/31: 0件
A15						2	目標とするシナリオ数を実施していること。		ログ	プロセスに処理開始ログ(ログコード[AP-5009])とプロセス処理終了ログ(ログコード[AP-5017])の個数をカウントする	OK	11月2日	20分ごとに10/30、10/31の両日間: 144ファイルのやりとりを確認
A15				4	効率性	1	CPU使用率がテスト期間中に異常に高くなりつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Processor]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・Processor Time :85%(以上)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する 7号機はBizXServer,BizXCClientと同時に動作しているので参考値	OK	11月2日	[3号機(発注側BM)] 最大100% / 最少1% / 平均12% [7号機(受注側BizX)] 最大88% / 最少0% / 平均2%
A15						2	空きメモリ量がテスト期間中に異常に減りつづけないこと。	Windowsのパフォーマンスモニタにおいて[Memory]と[Paging File]のカウンタログを取得し、以下の項目について閾値を越えないこと ・Available Bytes :4M/バイト(未満)	その他	パフォーマンスモニタのカウンタログを取得する 7号機はBizXServer,BizXCClientと同時に動作しているので参考値	OK	11月2日	[3号機(発注側BM)] 最大 406540288Byte 最少 195989504Byte 平均 267012719Byte [7号機(受注側BizX)] 最大 170119168Byte 最少 1018804Byte 平均 61749885Byte
A15						3	JavaVMのFullGC後のメモリ使用量がテスト期間中に異常に増加しつづけないこと。		その他		OK	11月2日	Full GC 回数:0回
A15						4	JavaVMのFullGC処理に必要な時間がテスト期間中に大きく変動しないこと		その他		OK	11月2日	Full GC 回数:0回

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
A15						5	1日のディスクの使用量が2GB以内であること	テスト終了後にディスクの使用量を確認し、テスト開始前のディスク使用量と比較する	その他	(記録から差分を取る)	OK	11月2日	2004/10/29 18:54 現在 CDドライブ; 使用領域: 36,740,939,776Byte 空き領域: 83,224,768,512Byte Dドライブ; 使用領域: 12,679,581,696Byte 空き領域: 107,318,992,896Byte --- 2004/11/01 11:29 現在 CDドライブ; 使用領域: 44,492,832,768Byte 空き領域: 76,472,875,520Byte Dドライブ; 使用領域: 12,679,581,696Byte 空き領域: 107,318,992,896Byte ===== 64時間でのディスク使用量概算: 7,751,892,992Byte 1時間あたりの平均ディスク使用量概算: 121,123,328Byte 1日あたりの平均利用ディスク量概算: 2,906,959,872Byte(約3GB)
B1	48	発注～出荷確定 (トレース情報の確認: そのまま) [ASN]そのまま [受領]そのまま	発注データ: 6明細x6をBPCに投入	1	発注送信時 (業務APアダプタ-BM)	1	BMの簡易チェック送信時の最初と最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
B1				2	発注送信時 (SFI送信アダプタ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【送信時 (SFI送信アダプタ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
B1				3	発注送信時 (SFI送信アプリ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【送信時 (SFI送信アプリ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月21日	
B1				4	発注送信内容の確認 (送信時)	1	業務APアダプタでBMが受信した業務情報ファイルとSFI通信サーバの送信ディレクトリに保存されたJ-XMLの内容と一致していること	発注企業コードと受注企業コードが一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月21日	
B1				5	トレース情報の確認	1	発注情報送信のトレース情報が確認できること	新規登録にて発注のトレース情報が確認できること	ツール	ツールの出力結果を参照	OK	10月21日	
B1				6	ASN受信時 (SFI受信アプリ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【受信時 (SFI受信アプリ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月24日	
B1				7	ASN受信時 (SFI受信アダプタ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目#45)】の【受信時 (SFI受信アダプタ)】の最初のログと最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月24日	
B1				8	ASN受信時 (BM-業務アダプタ)	1	BMの簡易チェック送信時の最初と最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月24日	
B1				9	受信内容の確認 (受信時)	1	SFI通信クライアントが受信ディレクトリへ保存したファイルとBMが受信し業務APアダプタへ通知したファイルの内容が一致していること	発注企業コードと受注企業コードが一致していること	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月24日	
B1				10	トレース情報の確認	1	ASN情報受信のトレース情報が確認できること	先に送信した発注情報に対してASN受信のトレース情報が確認できること	ツール	ツールの出力結果を参照	OK	10月24日	

種別	#	テストシナリオ項目	テスト実施の前提 テスト実行手順	#	中項目	#	テスト項目	テスト項目詳細	確認 箇所	確認方法	結果	実施日	実施時の備考 (BTS: バグ管理システムのこと)
B1				11	受領送信時 (業務APアダプ タ-BM)	1	BMの簡易チェック受信時の最初と 最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月24日	
B1				12	受領送信時 (SFI送信アダプ タ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目 #45)】の【送信時 (SFI送信アダプタ)】の最初のログ と最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月24日	
B1				13	受領送信時 (SFI送信アプリ)	1	【簡易チェック(テストシナリオ項目 #45)】の【送信時 (SFI送信アプリ)】の最初のログと 最後のログが確認できること	(同項目確認項目を参照)	ログ	(同項目確認項目を参照)	OK	10月24日	
B1				14	受領送信内容の 確認(送信時)	1	業務APアダプタでBMが受信した 業務情報ファイルとSFI通信サー バの送信ディレクトリに保存された J-XMLの内容と一致していること	発注企業コードと受注企業コードが 一致しているこ	その他	(ファイルの内容の突合)	OK	10月24日	